

「平成28年度食育に関する意識調査」の結果について

(1) 調査の目的

市民の食育に対する意識や食習慣等の実態を調査し、「第2次宇都宮市食育推進計画」（平成24年度から平成28年度までの5年間）の評価及び「（仮称）第3次宇都宮市食育推進計画」（平成29年度から平成33年度までの5年間）を策定するための基礎資料とする。

(2) 調査設計

ア 調査地域 宇都宮市全域

・調査対象者

一般（成人） : 4,996人

中学生・高校生 : 3,046人

幼児・小学生の保護者 : 2,379人

イ 調査方法

一般（成人） : 郵送による配布・回収

中学生・高校生 : 学校を通じた配布・回収

幼児・小学生の保護者 : 保育園・幼稚園・学校を通じた配布・回収

ウ 調査時期 平成28年6月

(3) 回収結果

	配布数	回収数	有効回収数	無効回収数	有効回収率
一 一般	4,996	2,209	2,203	6	44.1%
中学生・高校生	3,046	2,814	2,812	2	92.3%
幼児・小学生（保護者）	2,379	2,235	2,200	35	92.5%

(4) 調査結果（概要）

資料3のとおり

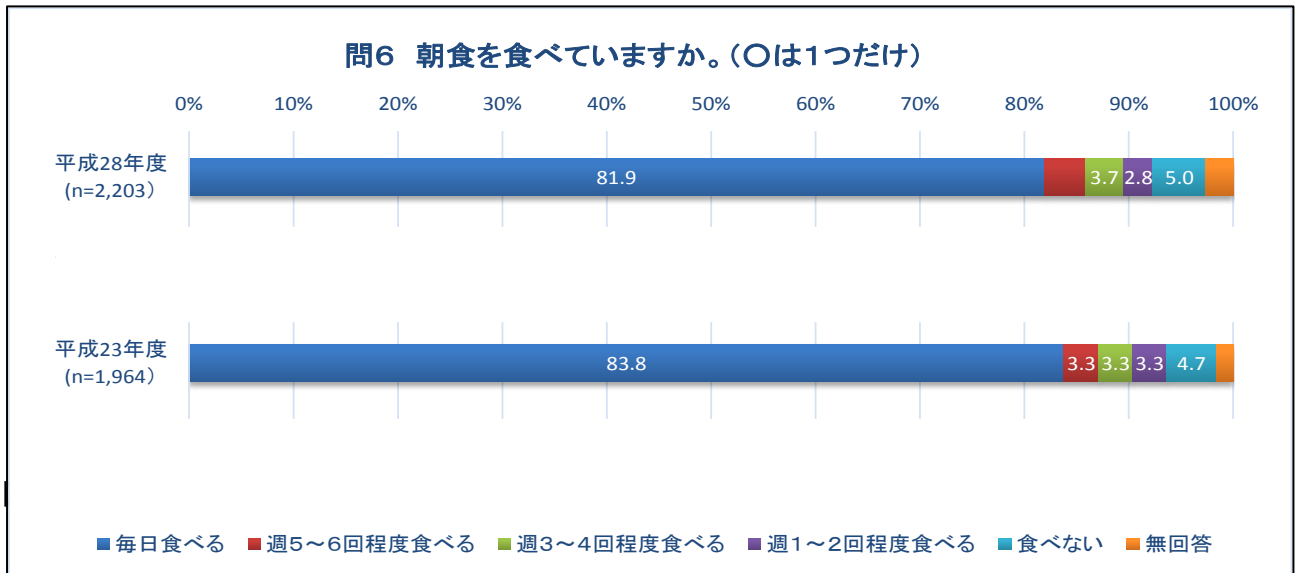
食育に関する意識調査の結果について（速報）

【基本目標1】毎日きちんと朝ごはんを食べます

〔規則正しい生活を心がけ、毎日朝ごはんをしっかり食べて充実した1日を過ごす〕

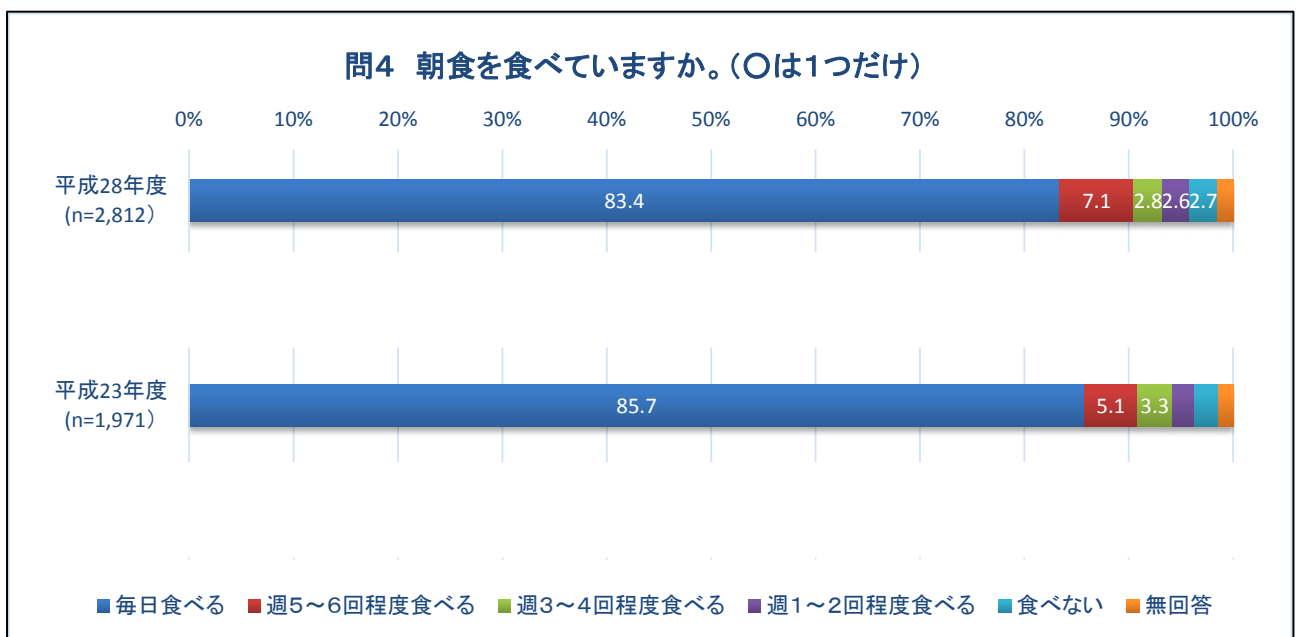
1 朝ごはんを毎日食べる人の割合

(1) 一般



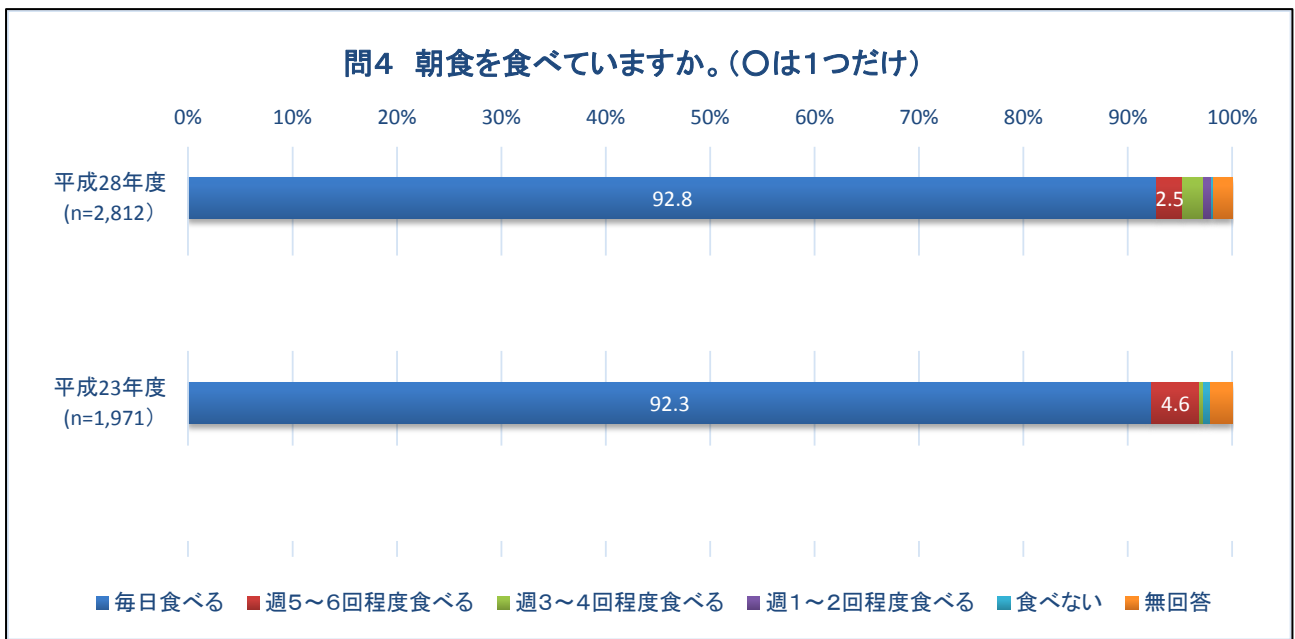
毎日食べる人は81.9%で横ばいの状況

(2) 中学・高校生



毎日食べる人は83.4%で横ばいの状況

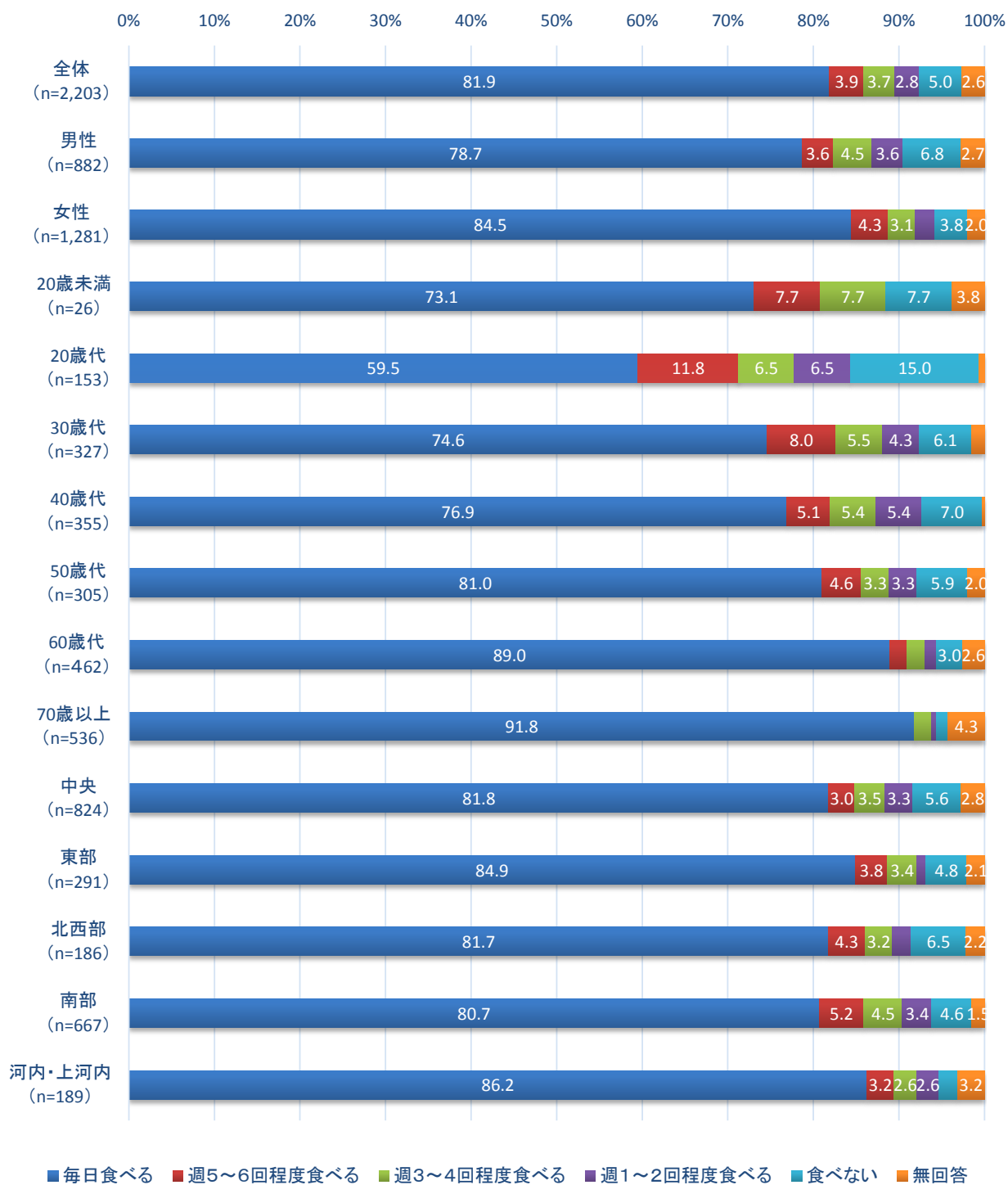
(3) 小児・小学生



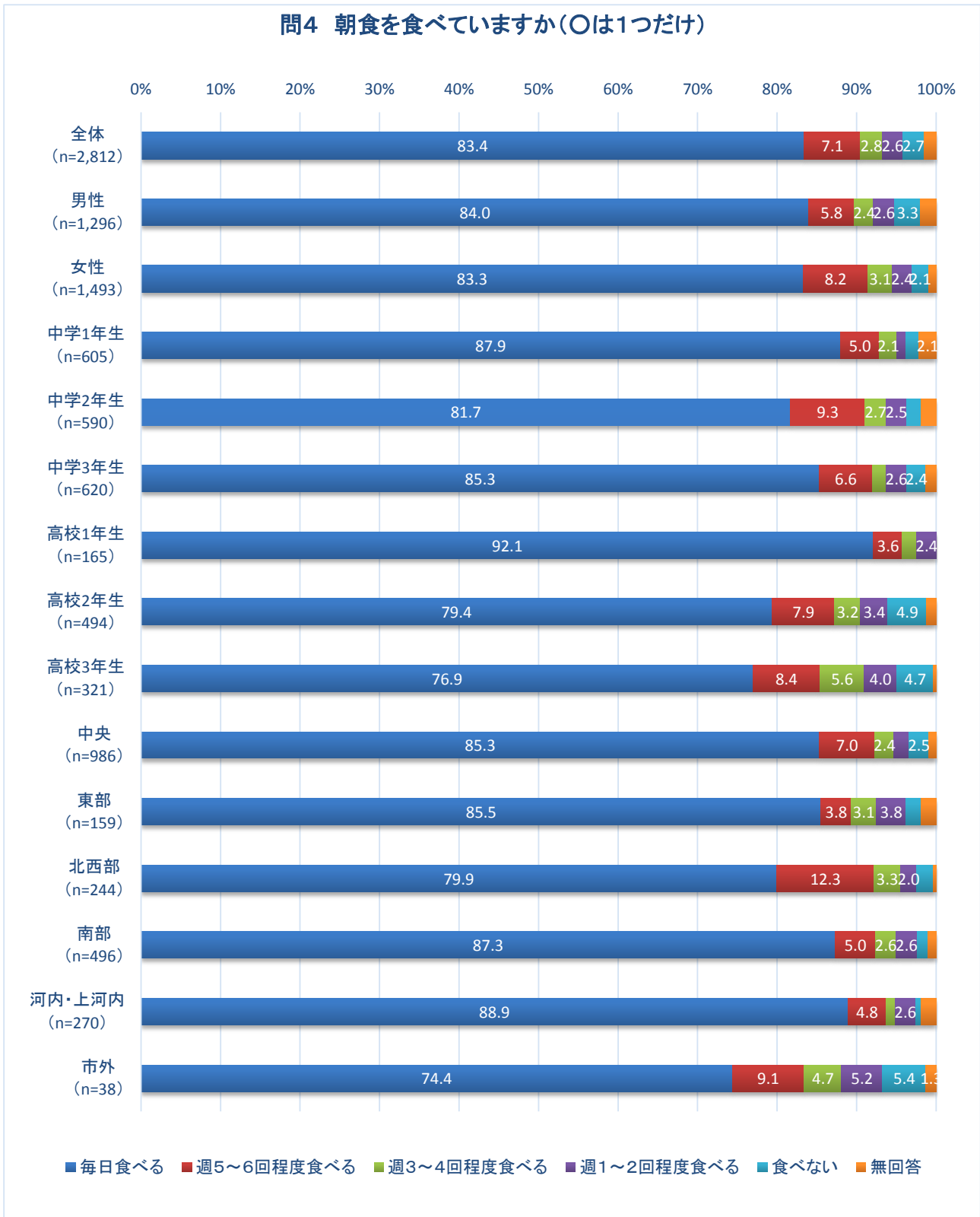
毎日食べる人は92.8%で横ばいであるが年々微増

(4) 一般（年代別・地域別）

問6 朝食を食べていますか。(〇は1つだけ)

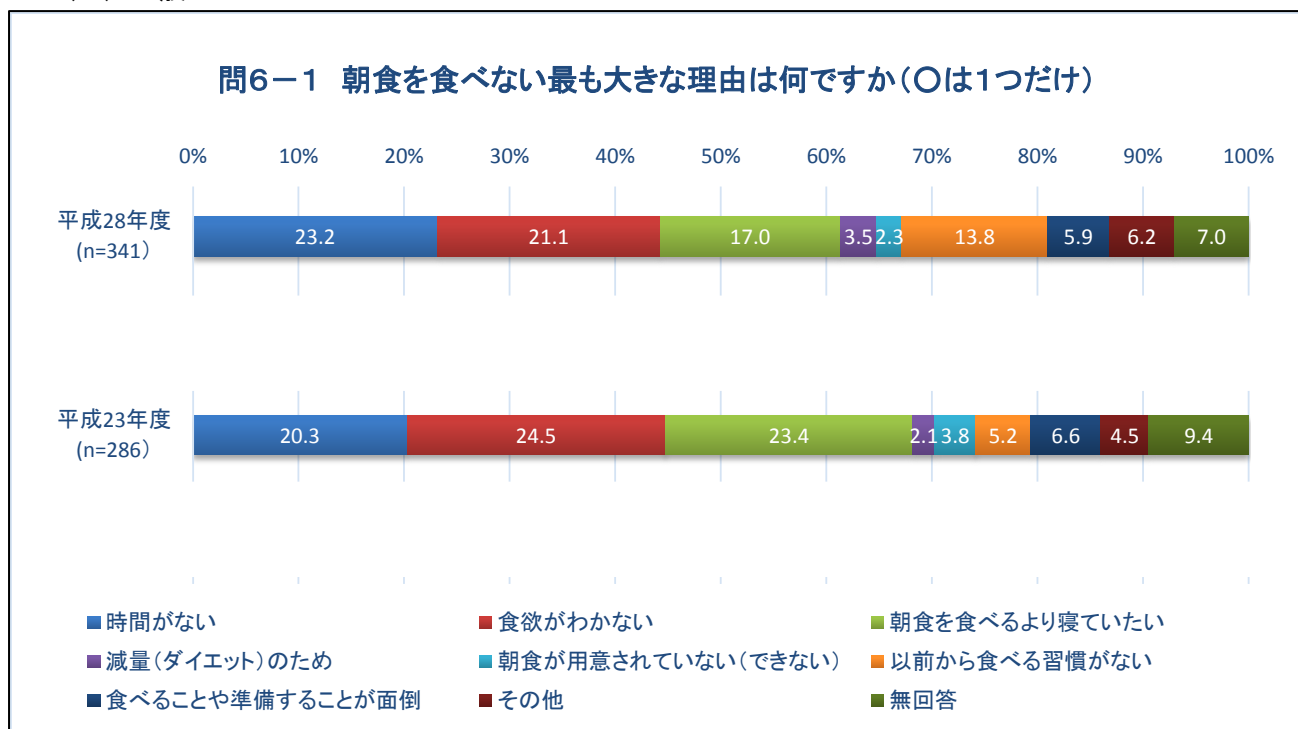


(5) 中学・高校生（年代別・地域別）



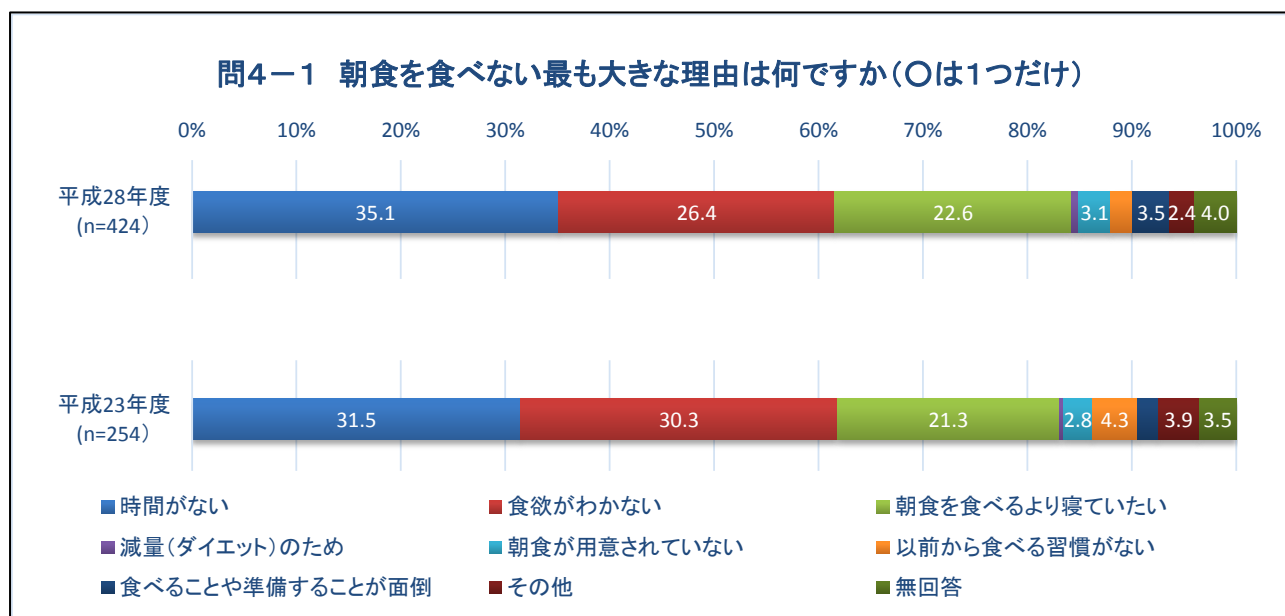
2 朝食を食べない理由

(1) 一般



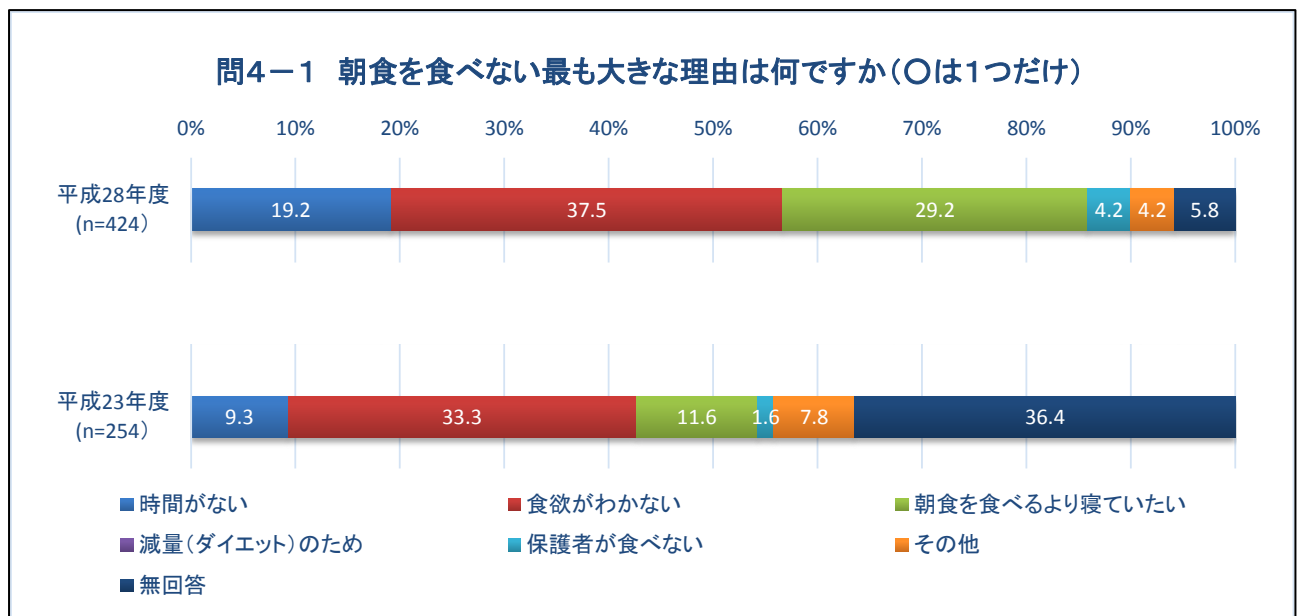
時間がないが23.2%もっとも多く、年次的にも横ばいの状況。以前から食べる習慣はないものが13.8%、平成23年度と比較しても増加傾向にある。

(2) 中学・高校生



時間がないが35.1%もっとも多く、やや年次的上昇傾向、次いで食欲がわかない26.4%、朝食を食べるより寝ていたい22.6%と横ばい。

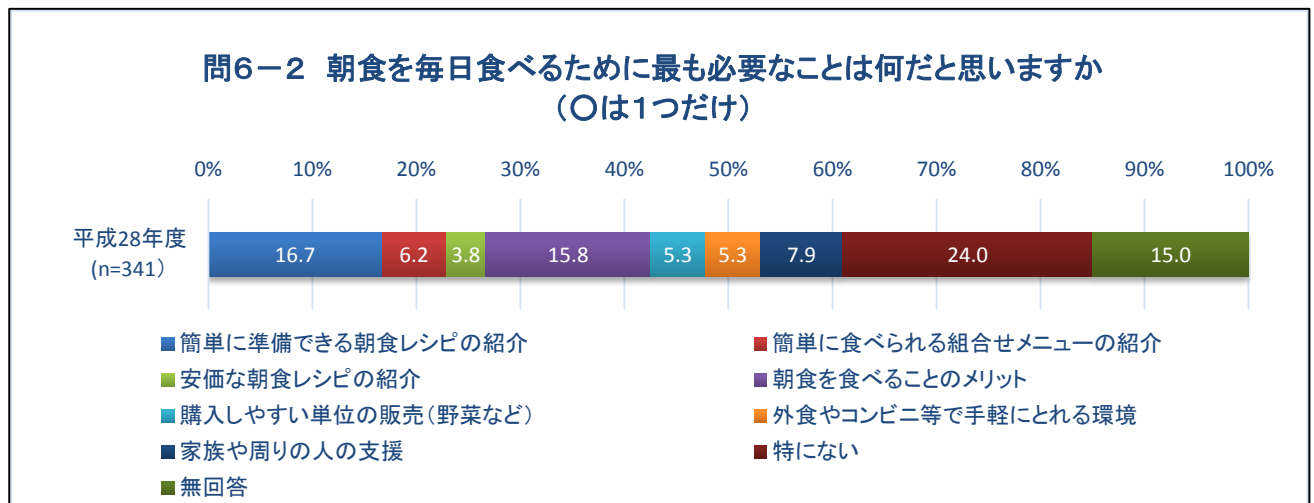
(3) 小児・小学生



食欲がわからない人が最も多く、37.5%、寝ていたいのが29.2%、時間がないは19.2%であるが、年々増加傾向にある。

3 朝食を食べるために必要だと思うこと

(1) 一般



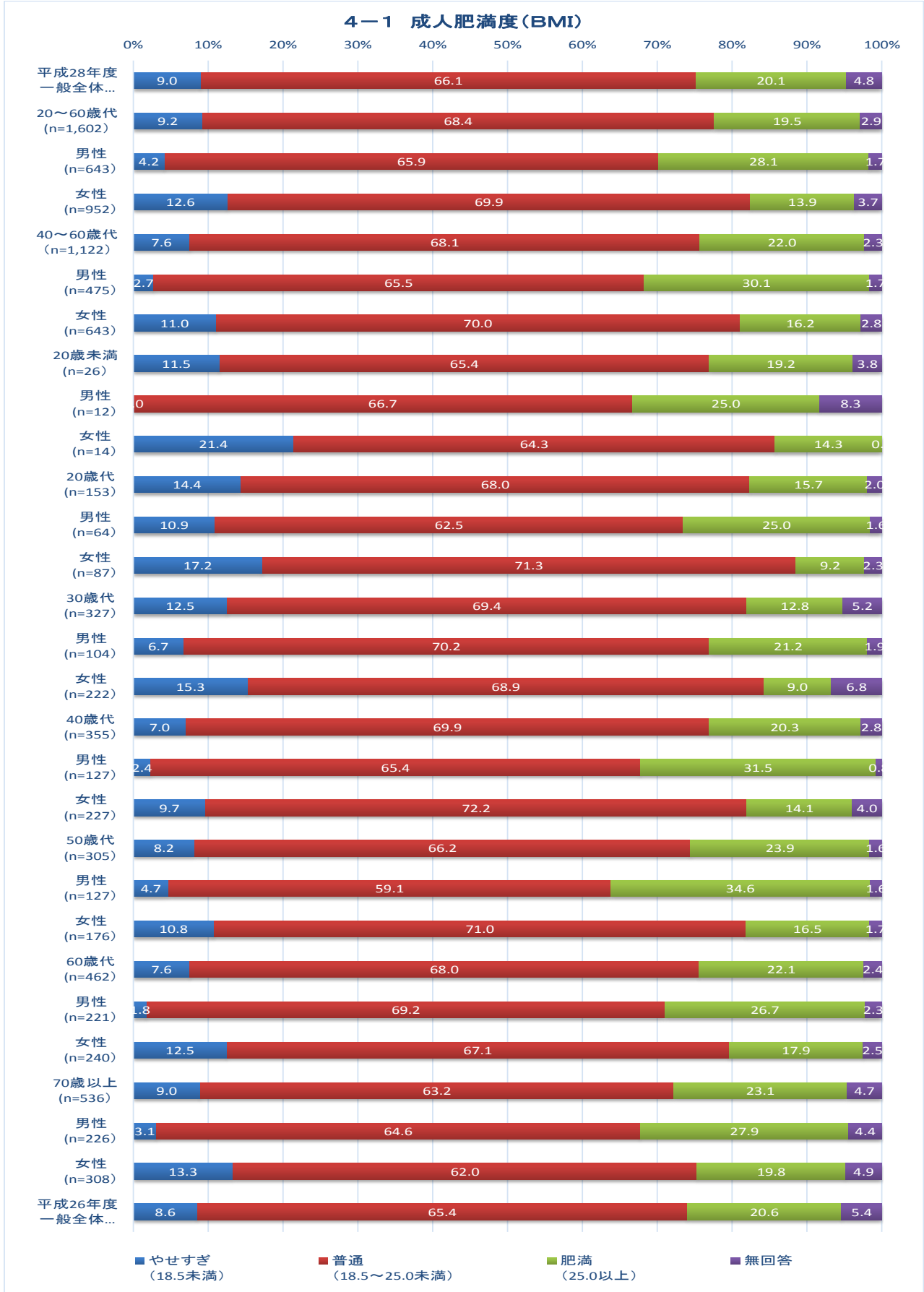
簡単に準備できる朝食レシピ紹介が16.7%、朝食を食べるメリットが15.8%の順になっている

【基本目標2】 バランスのとれた食事を楽しく食べます

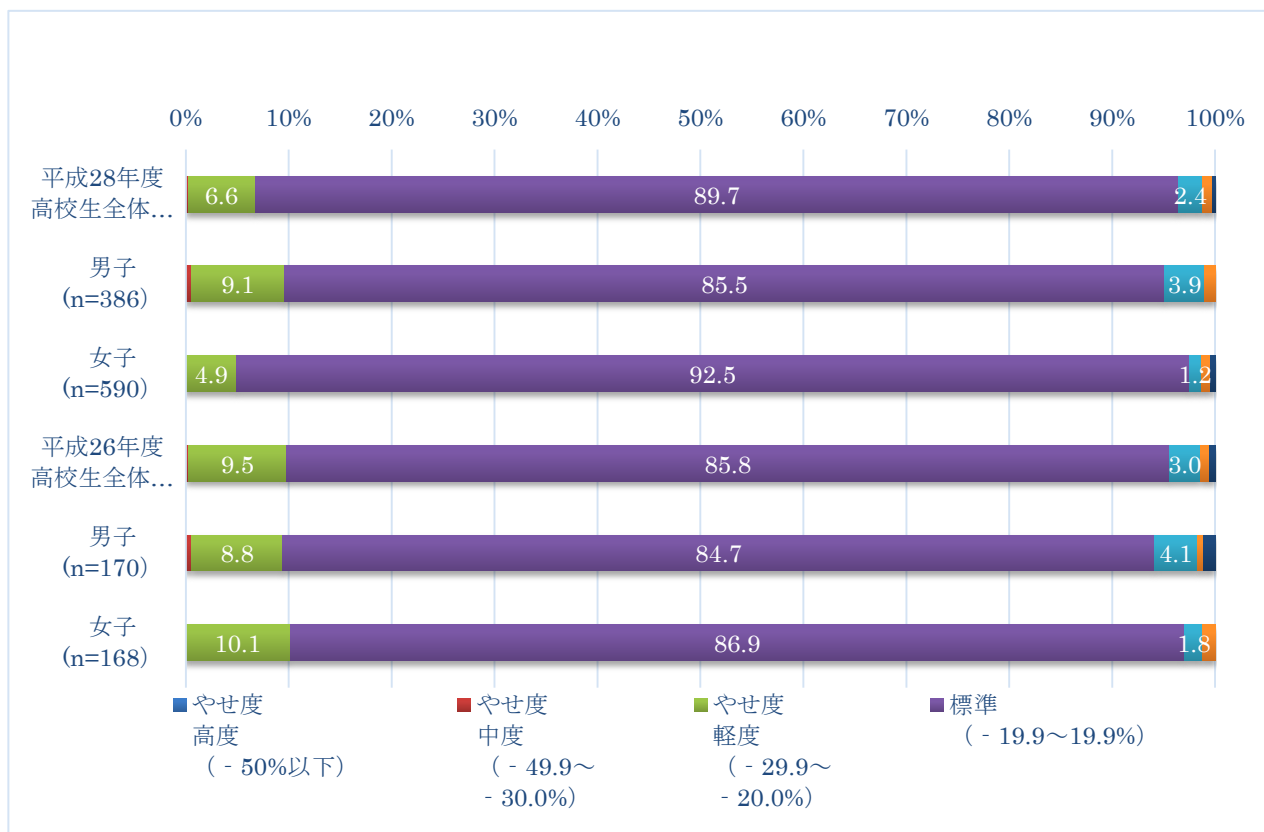
〔栄養バランスのとれた食事を家族や友人と食卓を囲みながら楽しく食べる〕

1 肥満度

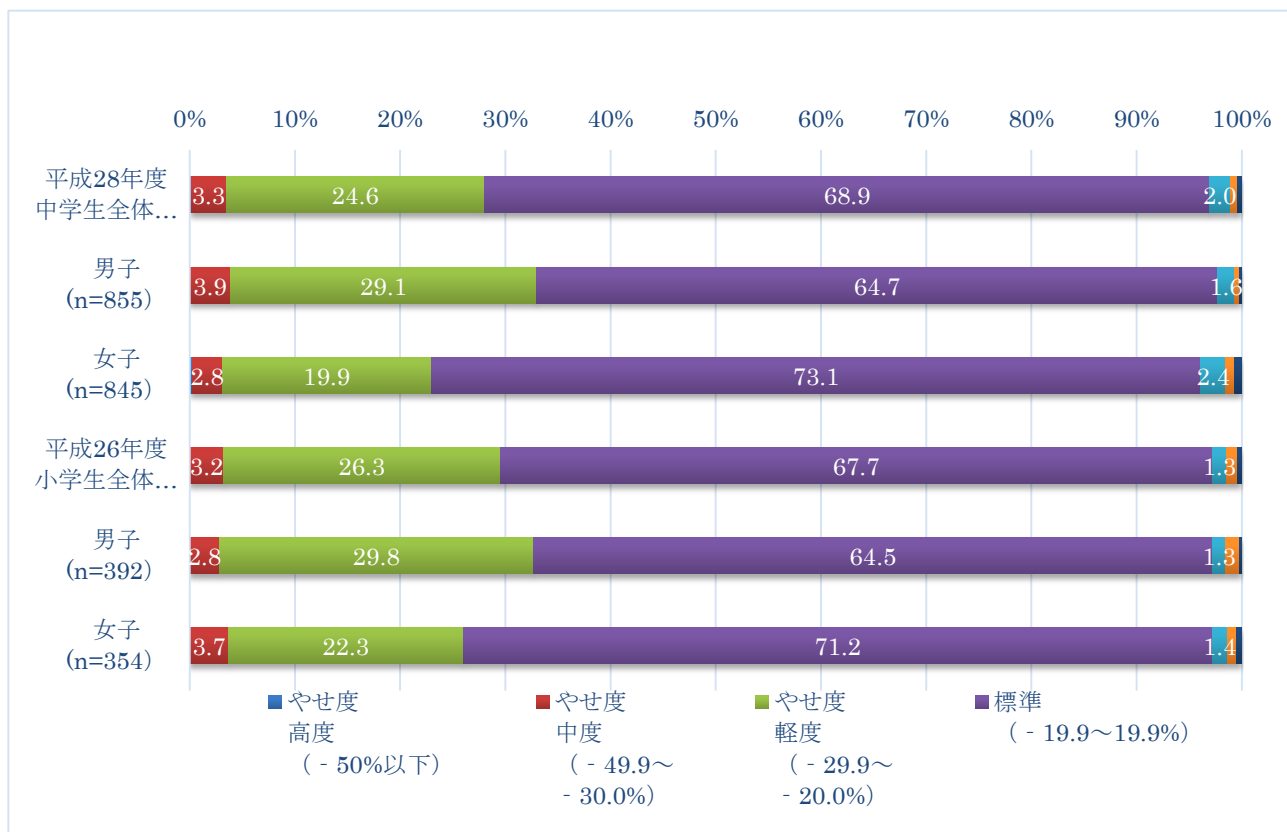
(1) 成人 (BMI)



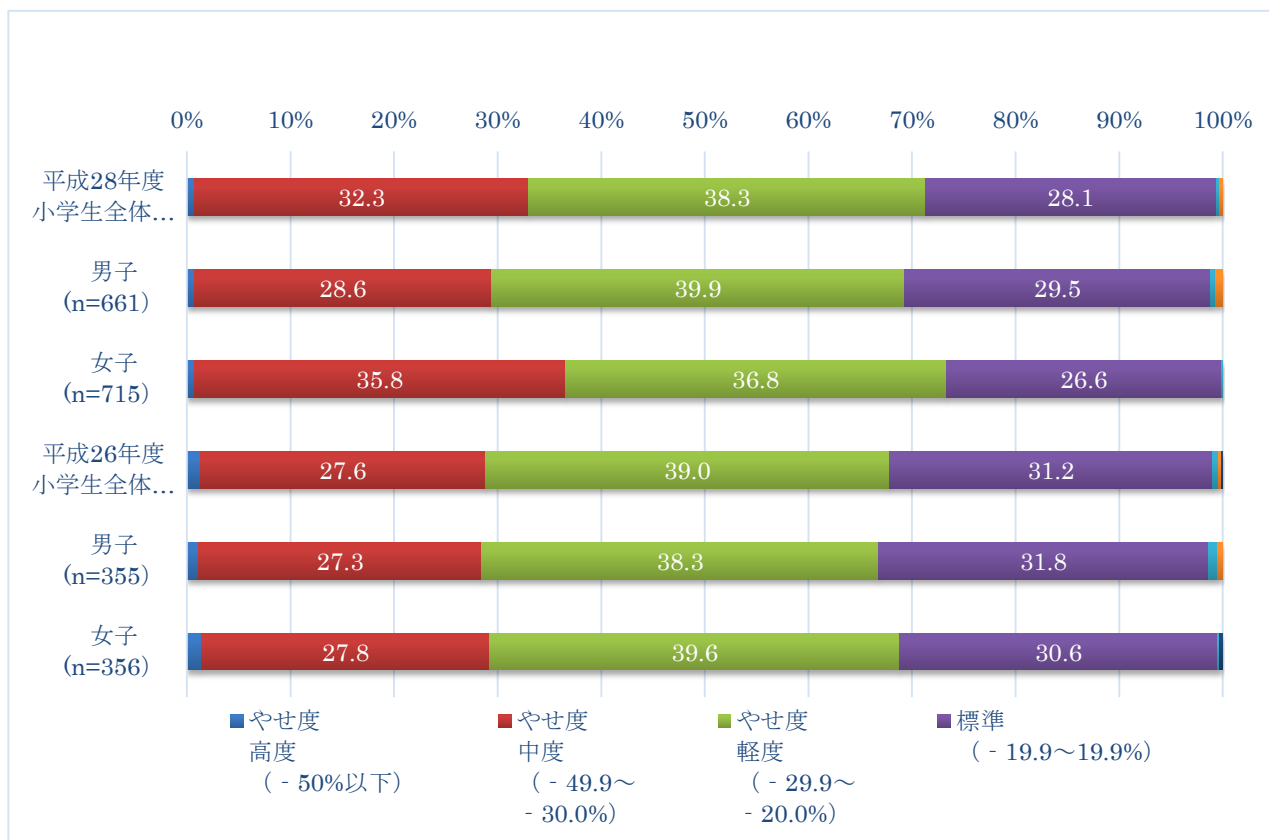
(2) 高校生



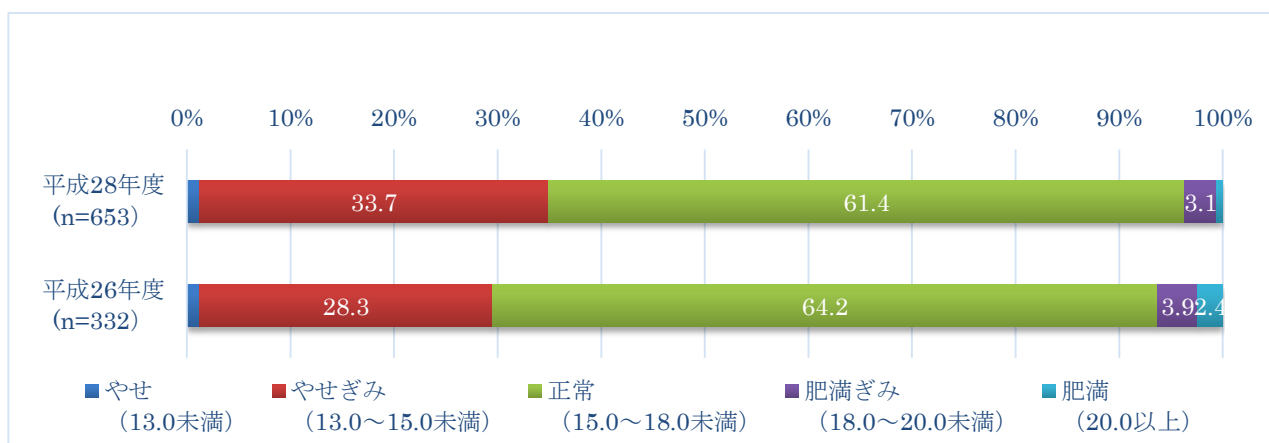
(3) 中学生



(4) 小学生

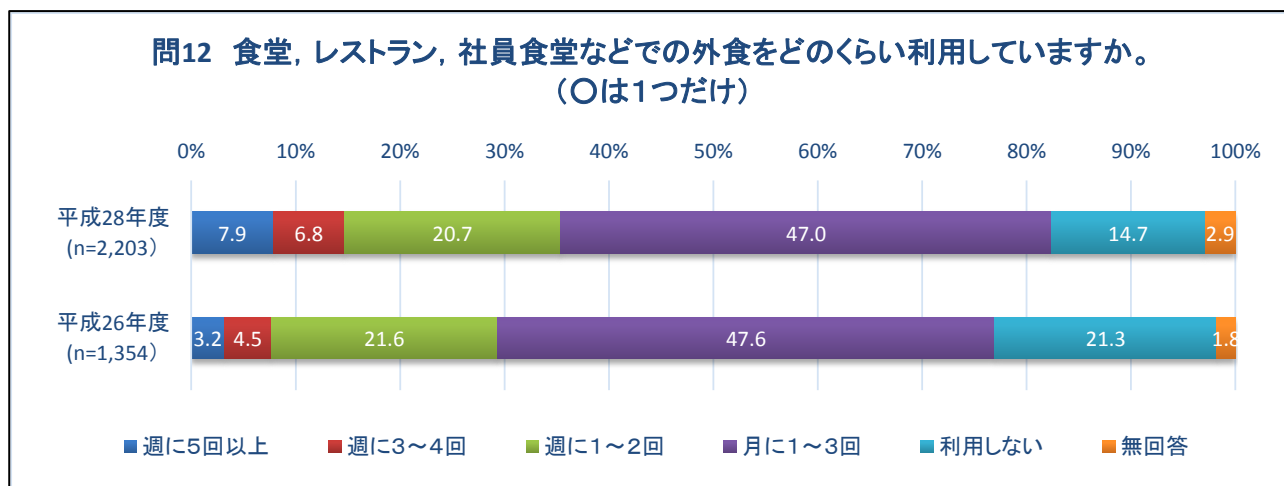


(5) 幼児



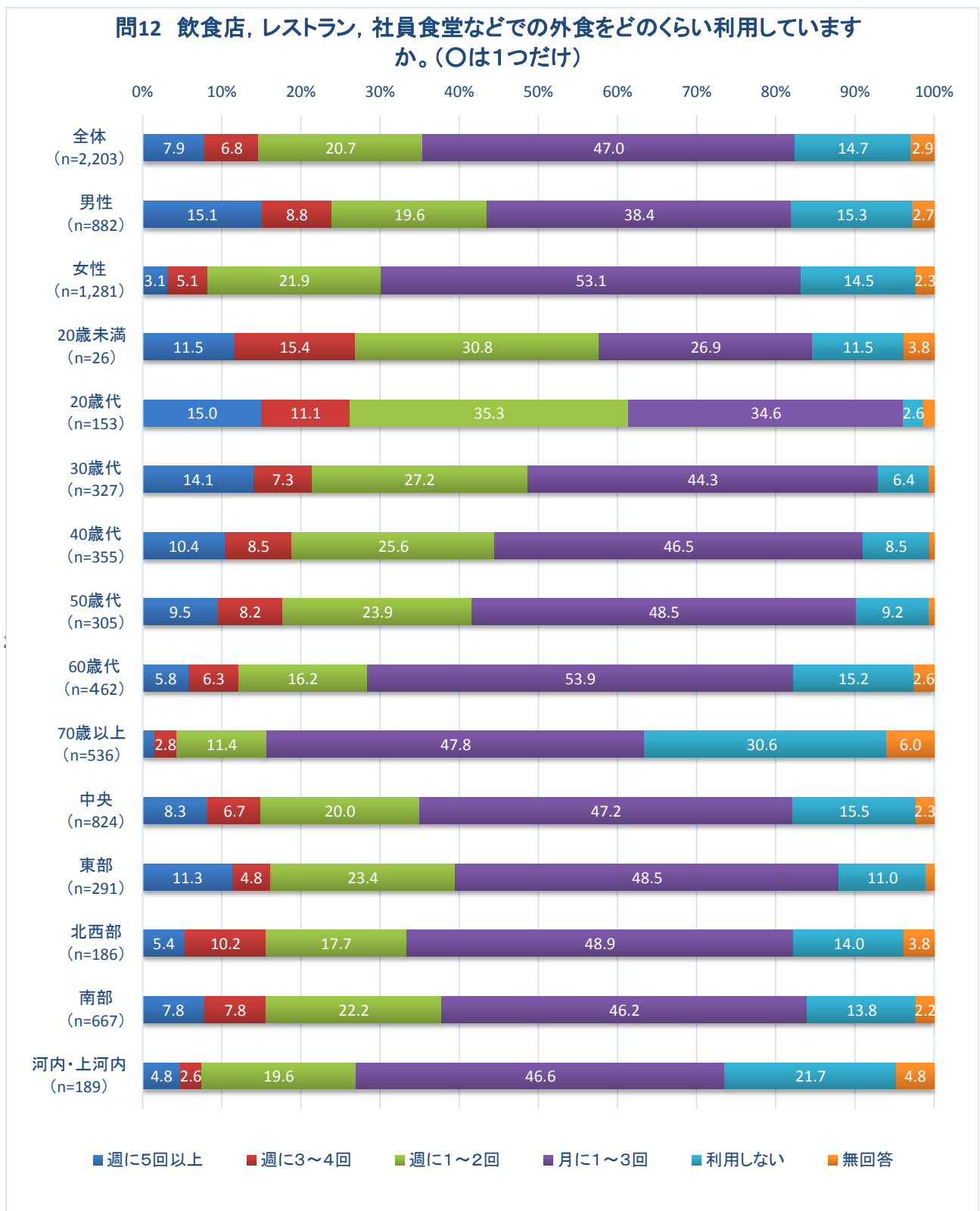
2 飲食店等を利用する人の割合（外食）

（1）一般



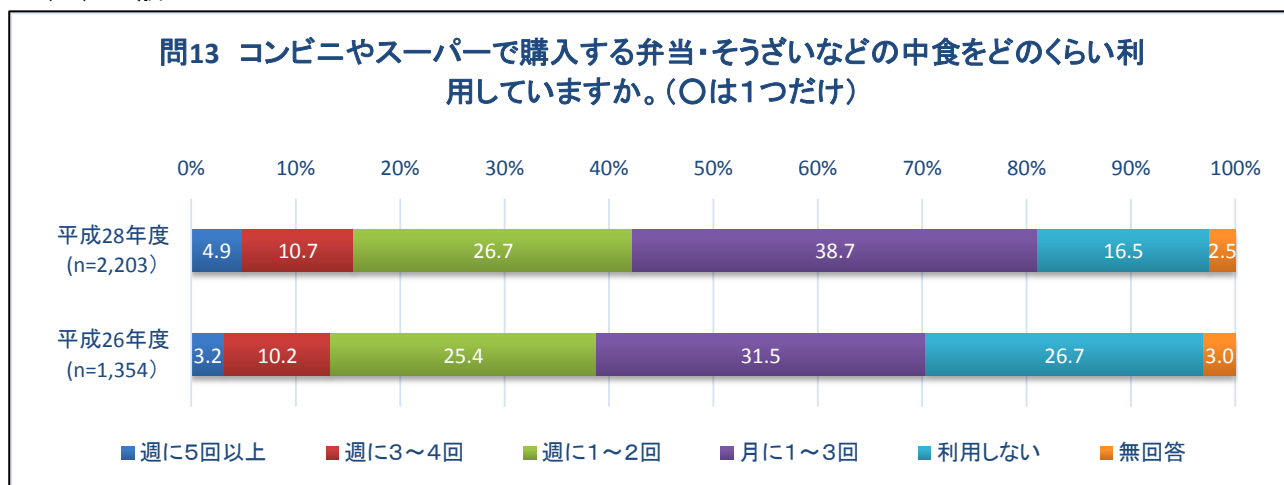
月に1~3回が最も多く、47.0%、週5回以上は26年度に比較し、倍増しており7.9%、週3~4回も含め増加している。

(2) 一般（年代別）



3 飲食店等を利用する人の割合（中食）

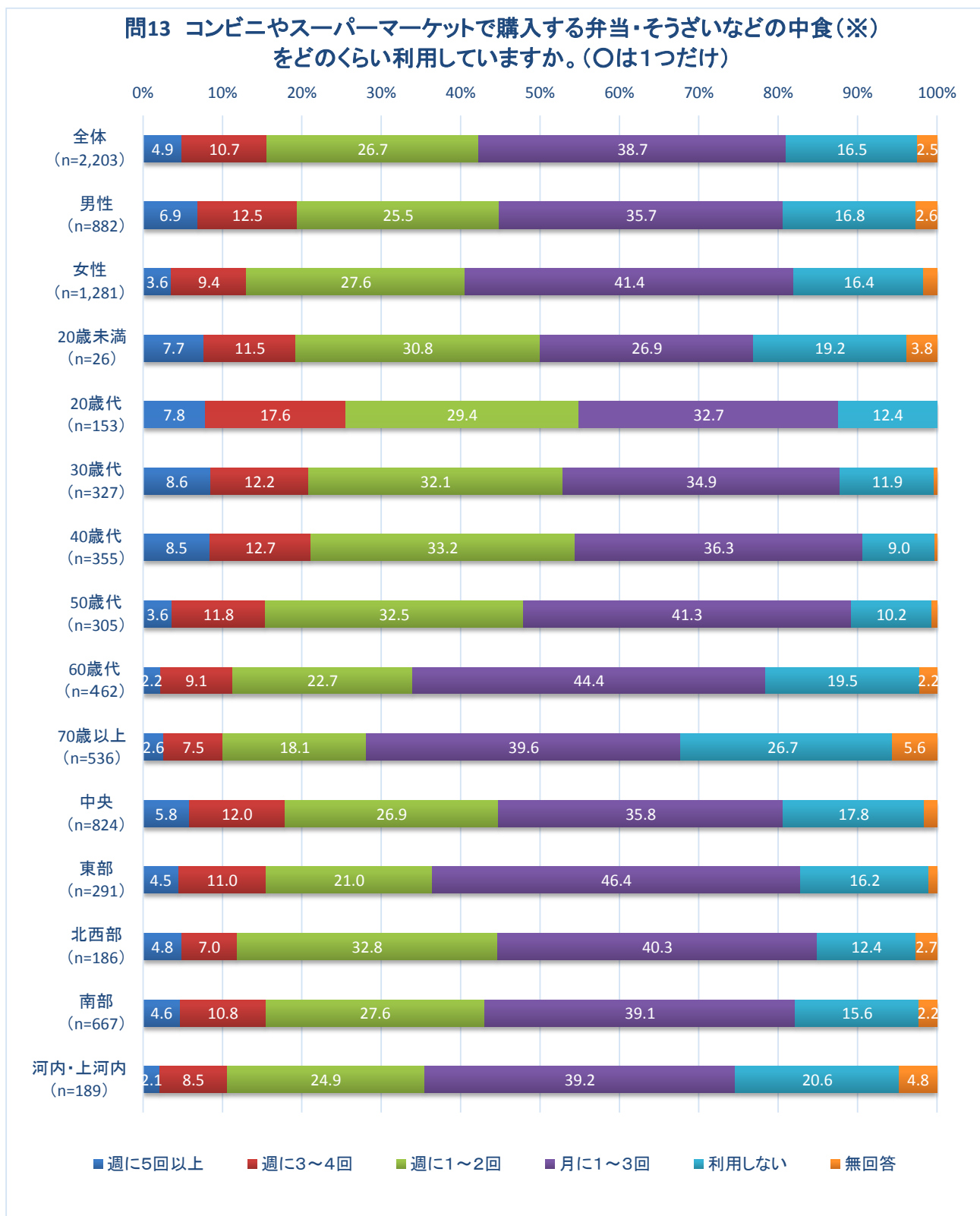
（1）一般



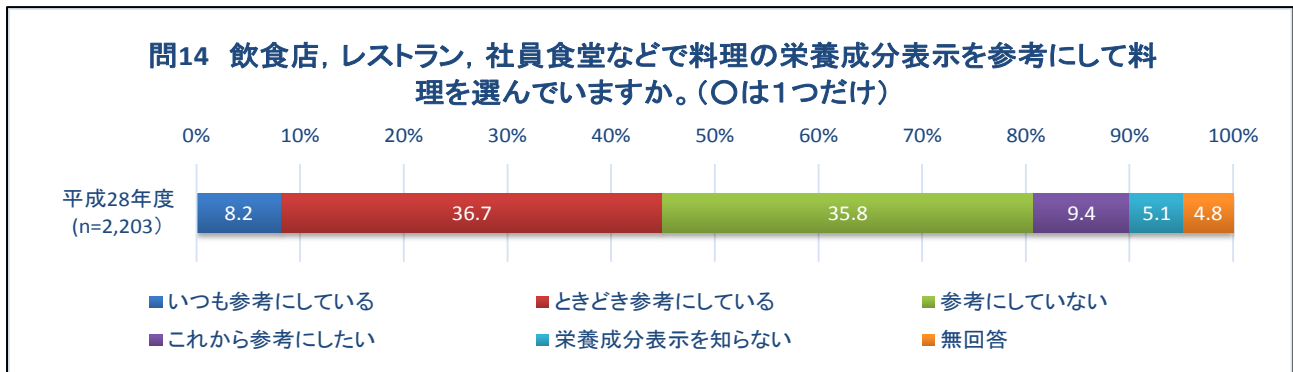
月1～3回の利用が最も多く、38.7%であるが、経年的にみると月に1～3回以上利用している人が増えている。(H26 70.3%⇒ H28 81%)

外食・中食とも年々増加しており、カロリーや栄養成分やアレルギー成分の表示の希望が増加していることから、外食中食産業への栄養成分やアレルギー成分等の表示の検討が必要

(2) 一般（年代別・地域別）

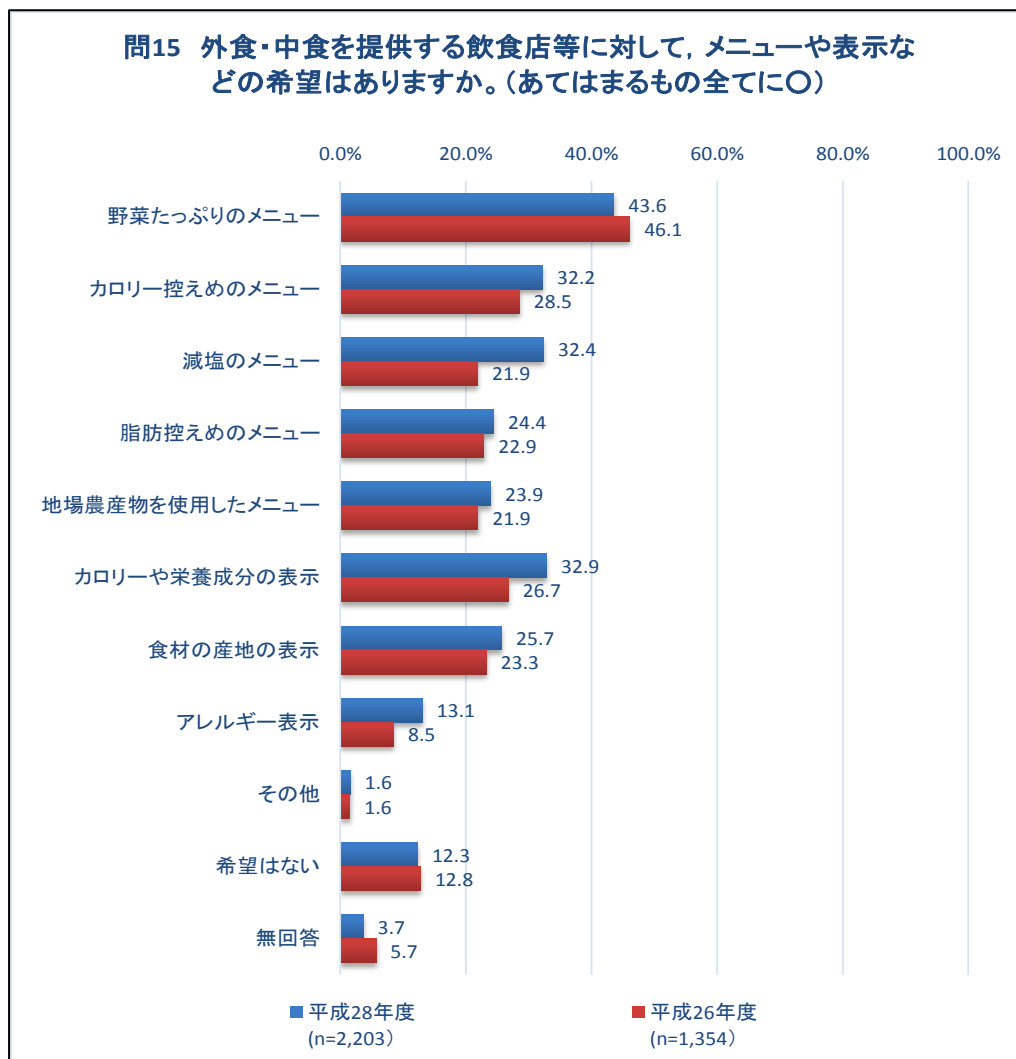


4 飲食店等を利用する時に栄養成分表示を参考にする成人の割合



ときどき参考にしている人が36.7%、参考にしていない人が35.8%である。9.4%の人が今後参考にしたいとの回答

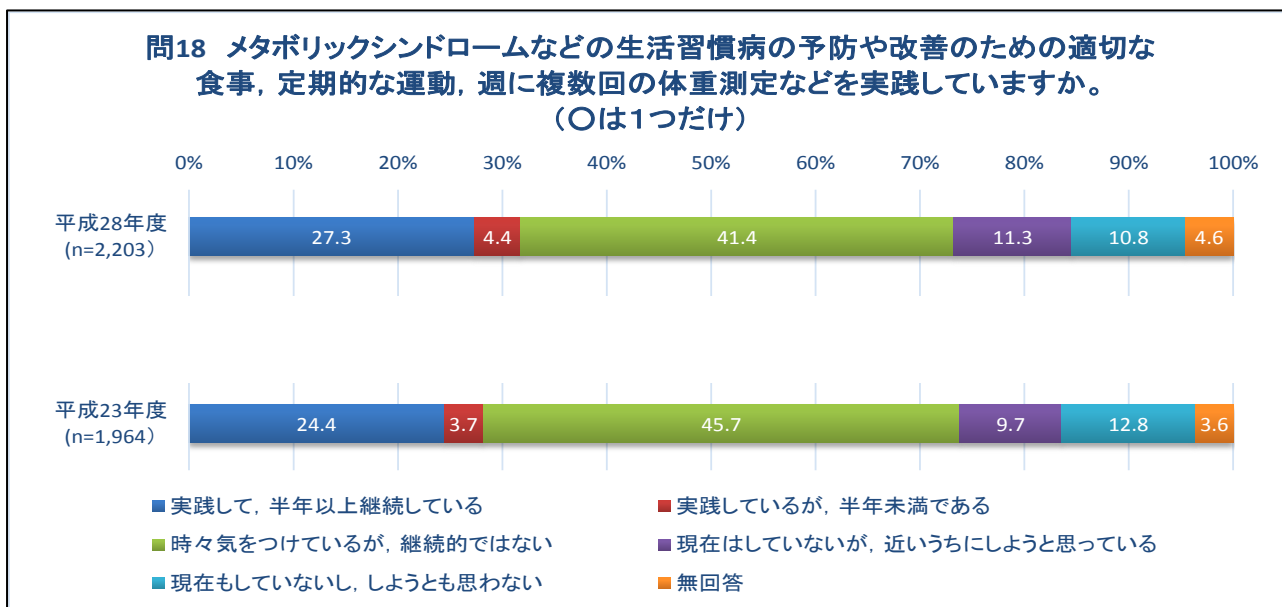
5 飲食店等のメニューや表示などへの要望



野菜たっぷりメニューの希望が最も多く43.6%、次に減塩メニュー32.4%の順になっている。経年変化をみるとカロリーや栄養成分の表示の希望が増加している。また、アレルギー表示の希望が増加している。

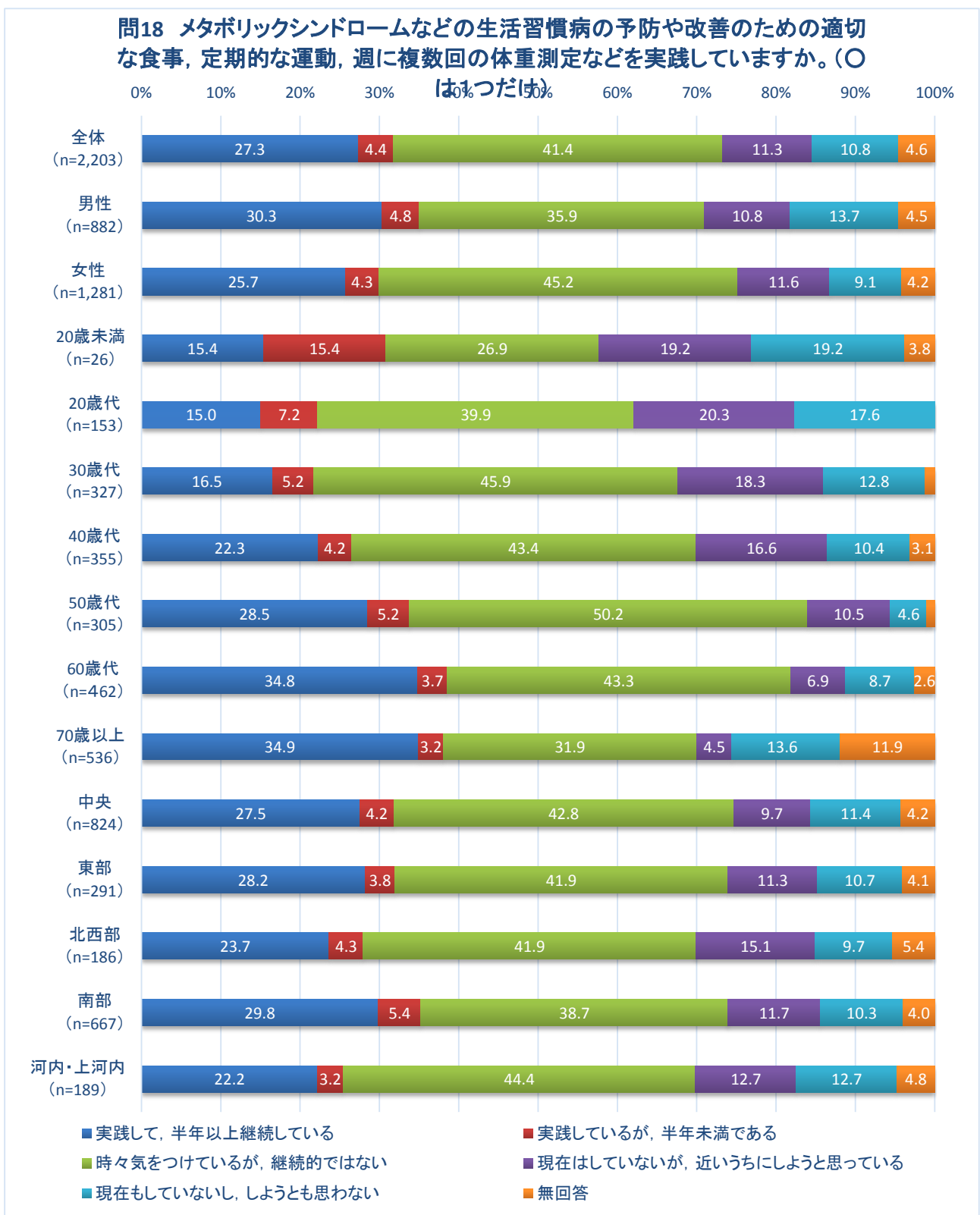
6 メタボリックシンドロームの予防や改善のための行動を実践している人の割合

(1) 一般



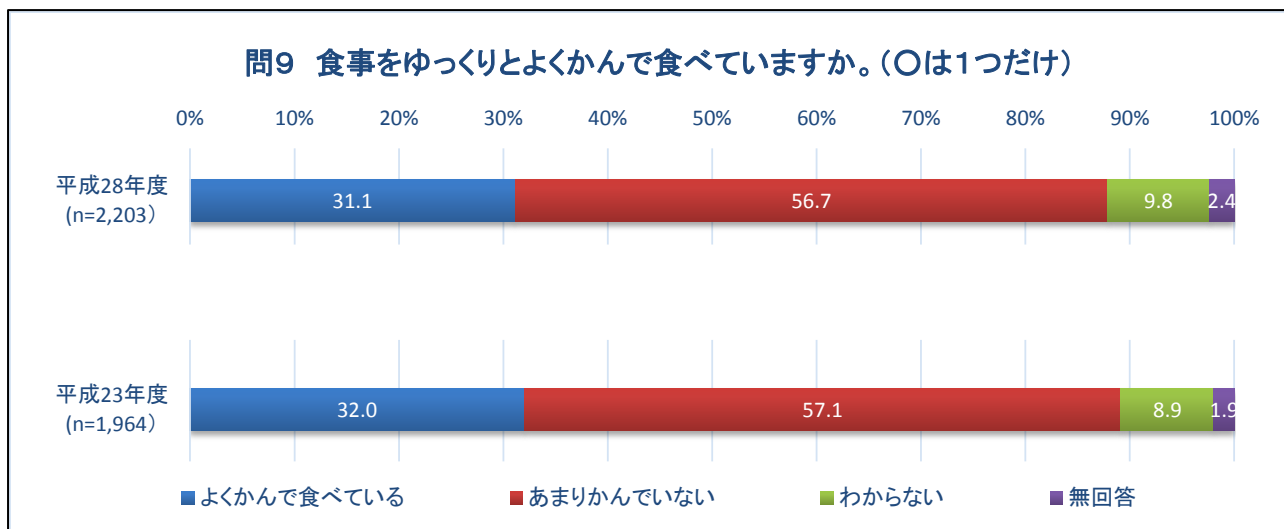
時々気をつけているが継続的でない人が最も多く、41.4%、実践して半年以上継続しているものが27.3%と次に多く、上昇傾向にある。

(2) 一般（年代別・地域別）



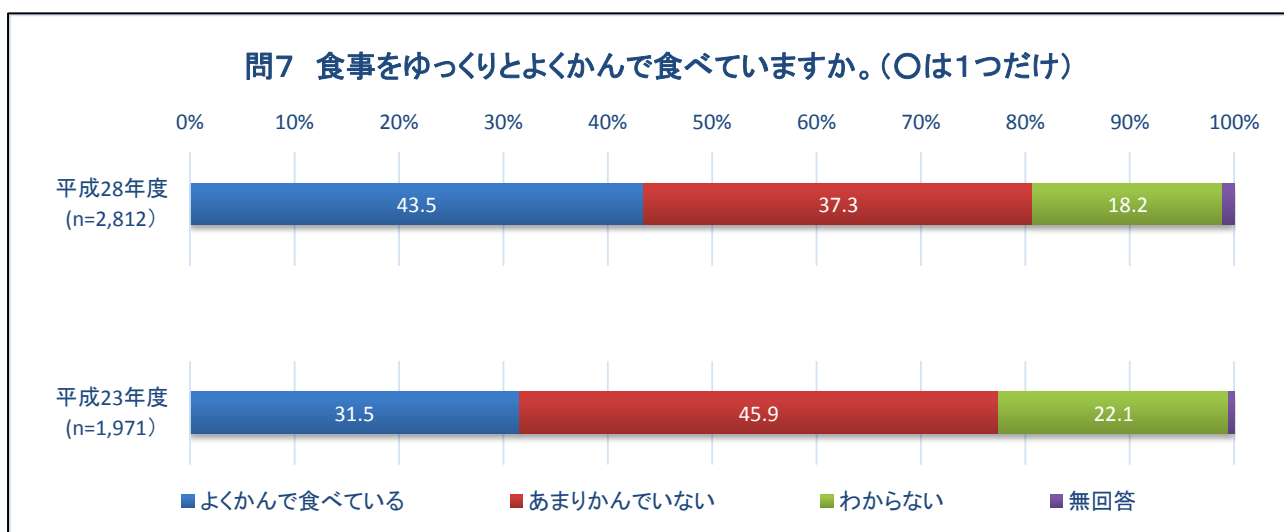
7 よく噛んで食べる人

(1) 一般



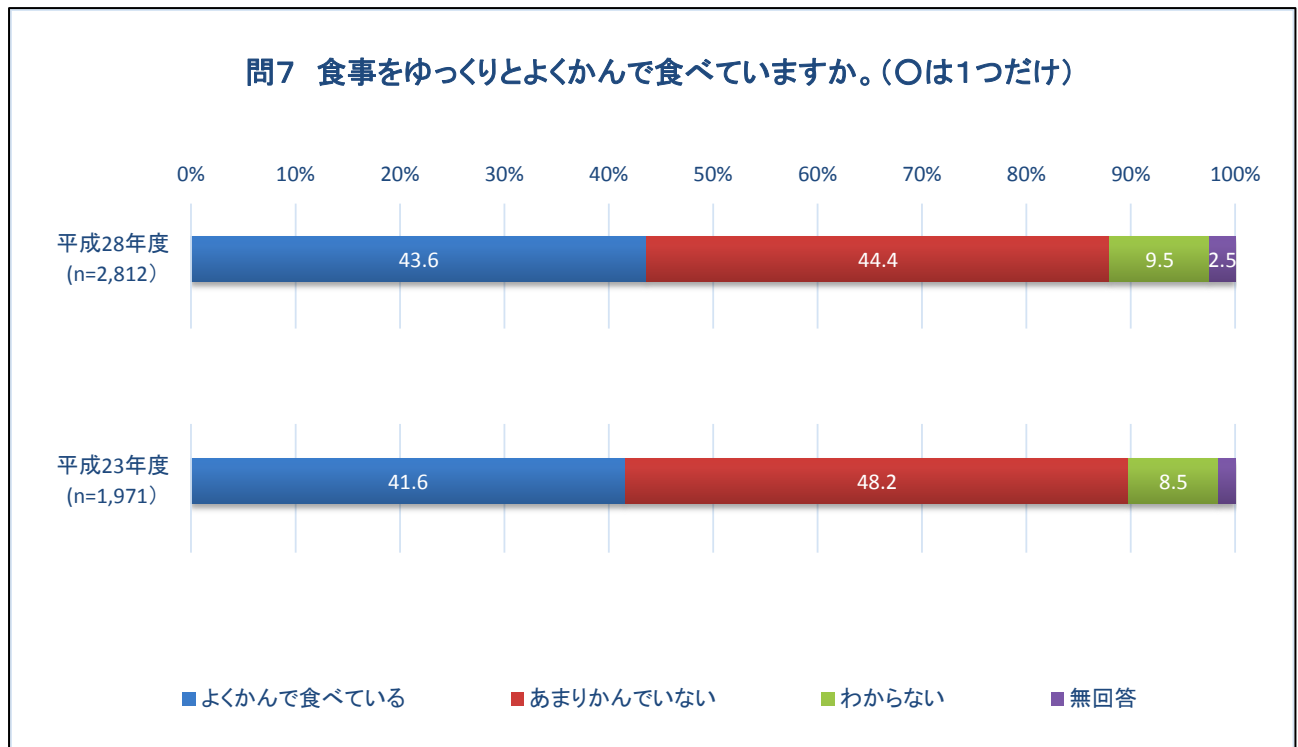
よく噛んで食べている人の割合は31.1%であり、横ばいの傾向、あまり噛んでいない人も56.7%と横ばいの状況

(2) 中学・高校生



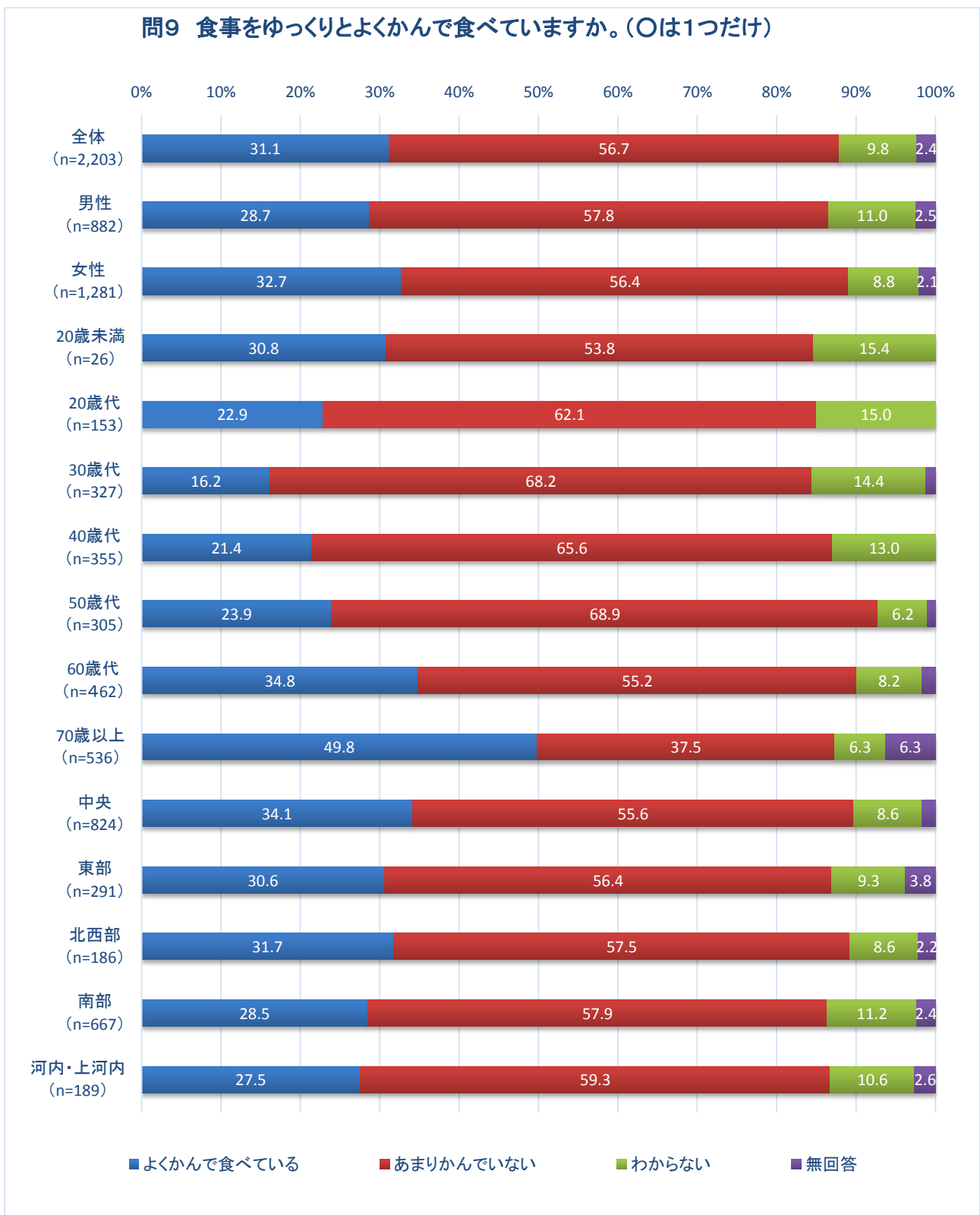
よく噛んで食べている人の割合は43.5%であり、平成23年度より上昇傾向にある

(3) 小児・小学生



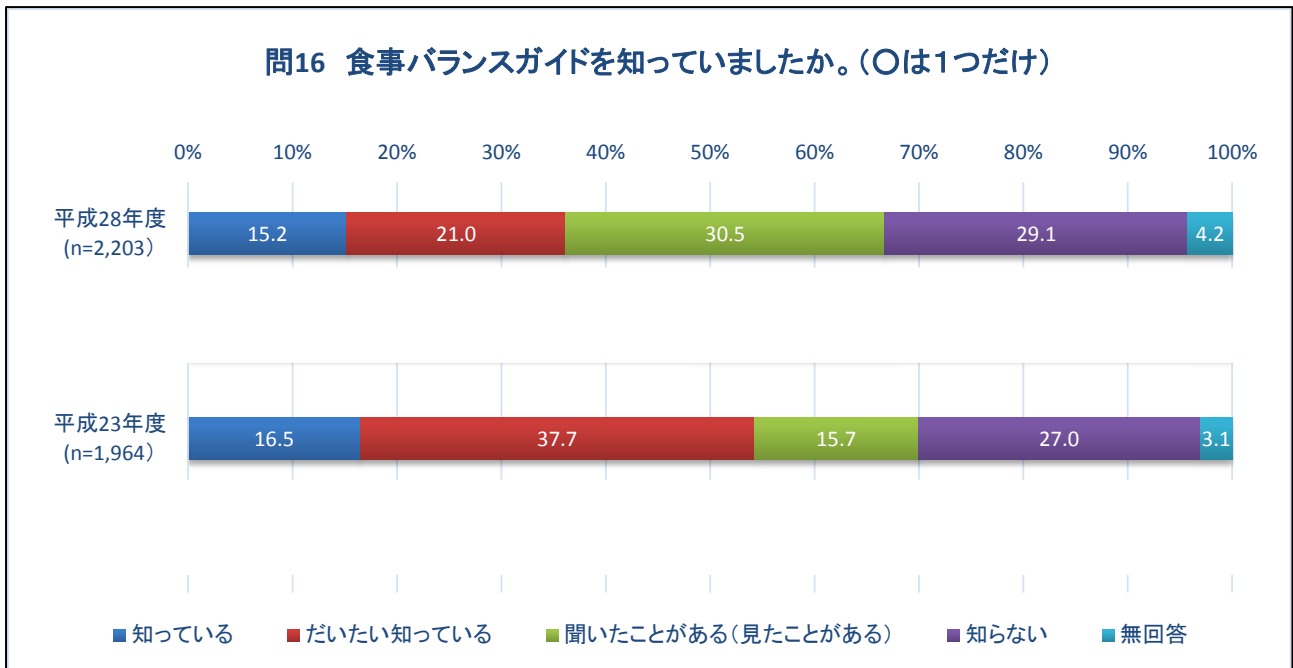
よく噛んで食べている人の割合は43, 6%であり, H23年度に比較すると横ばいの状況

(2) 一般 (年代別・地域別)



8 食事バランスガイドの認知度

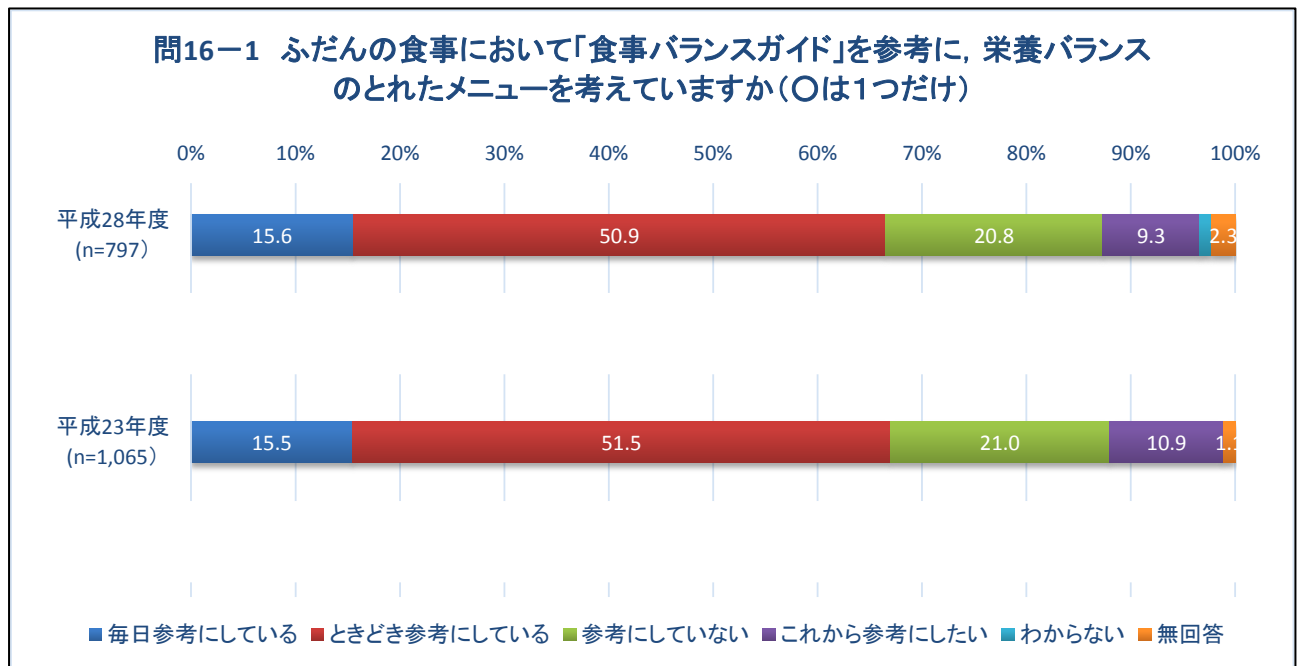
(1) 一般



聞いたことがある人は増えており、30.5%であるが、知っている、大体知っている人の割合は減少しており36.2%となっているが、平成23年度と比較すると知らない人の割合が増加傾向にある。

9 食事バランスガイドを参考に食生活を実践する人の割合

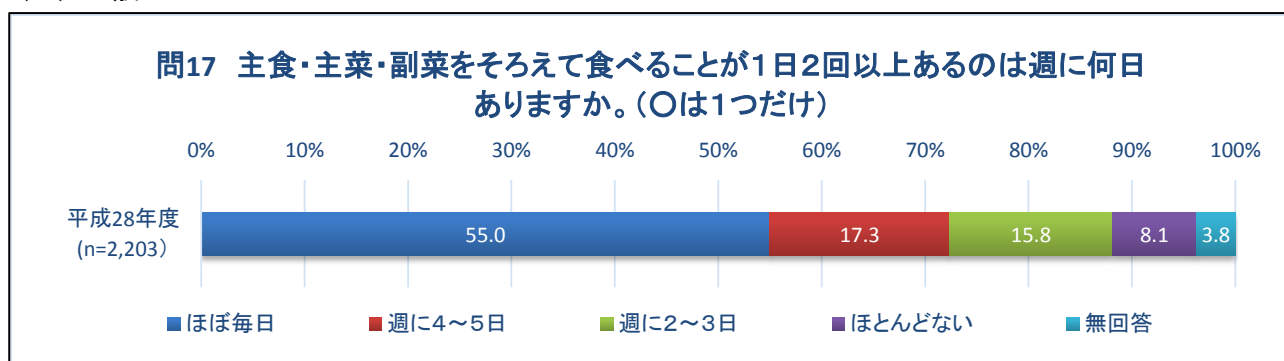
(1) 一般



食事バランスガイドを参考にメニューを考えることを毎日している人の割合は横ばいの状況である。

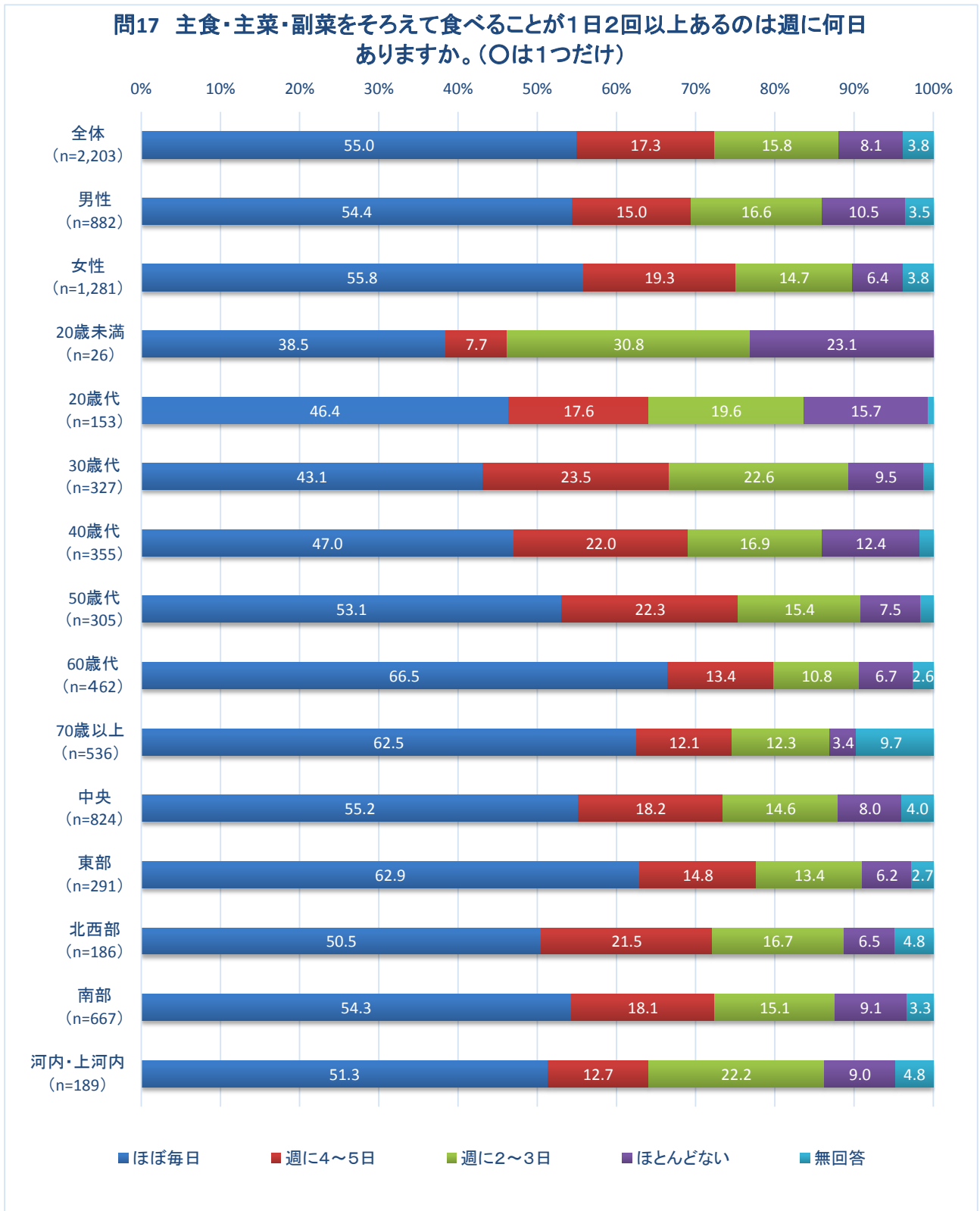
10 主食・主菜・副菜をそろえて食べるよう心がける人の割合

(1) 一般



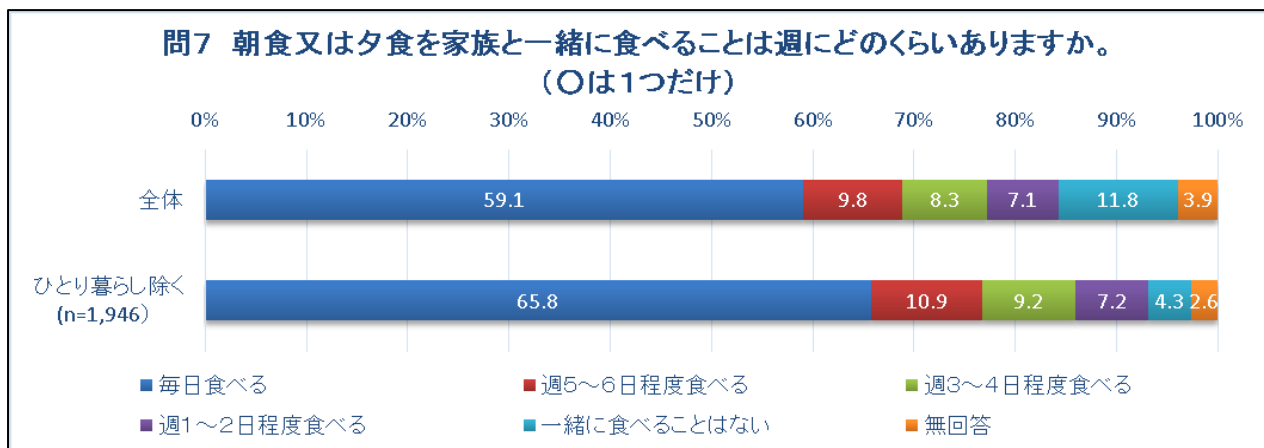
ほぼ毎日55.0%、週4~5日17.3%

(2) 一般（年代別・地域別）



1 1 朝食又は夕食を家族と食べる頻度

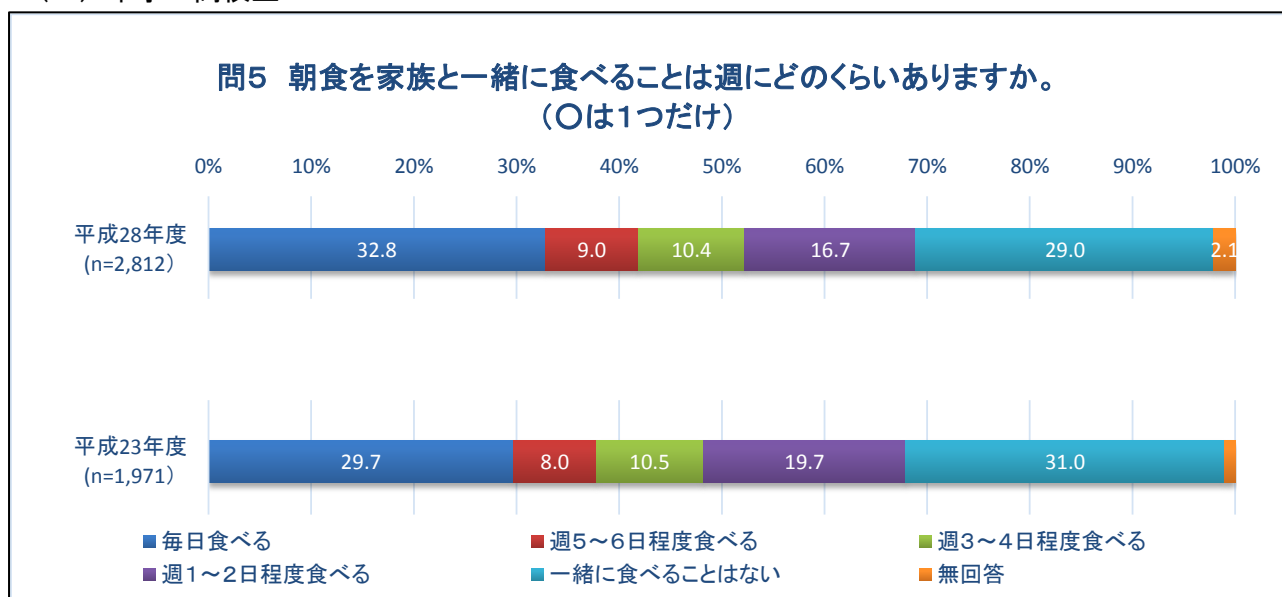
(1) 一般



毎日食べる人は65.8%で一緒に食べることはないものが4.3%である

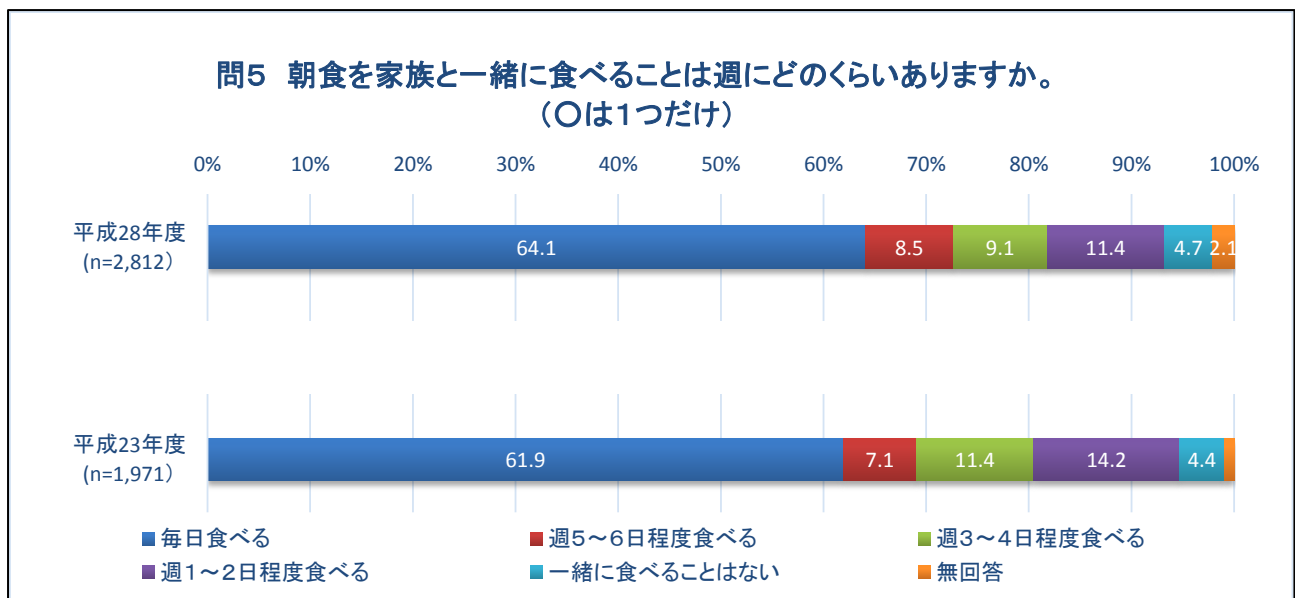
10 朝食を家族と食べる頻度

(1) 中学・高校生



朝食を家族と一緒に食べるという回答しているのは32.8%、一緒に食べることはない人が29%であるが年次的に横ばい

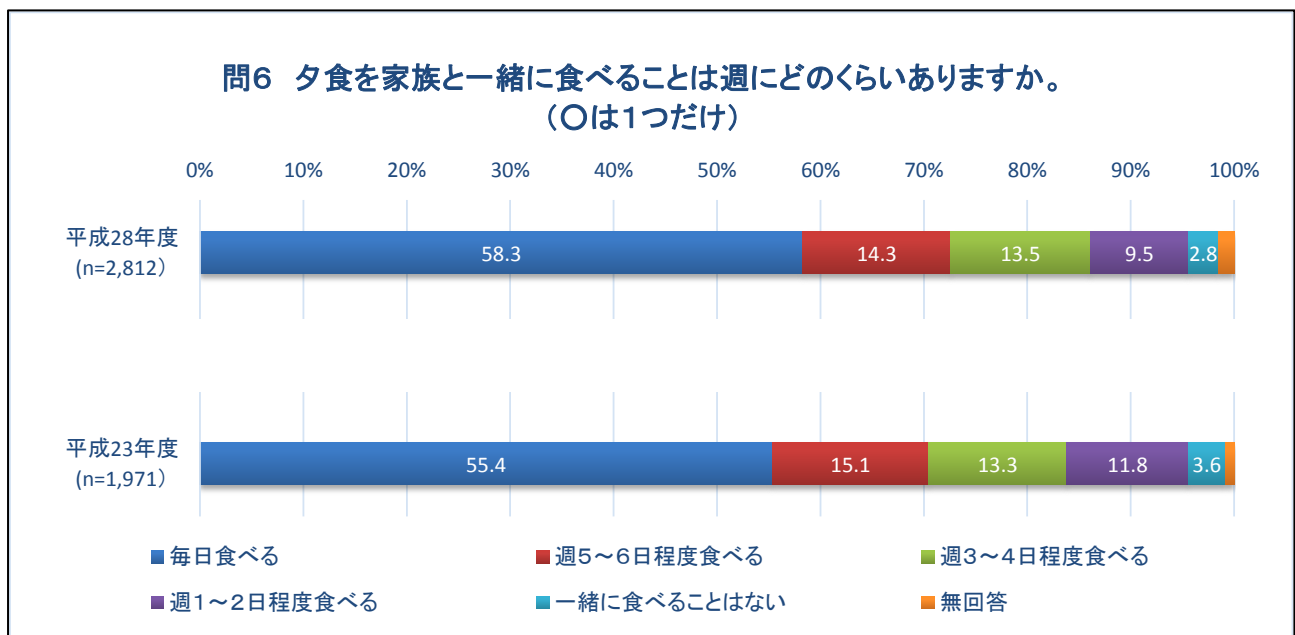
(2) 小児・小学生



毎日食べる人は64.1%であり、年々上昇傾向

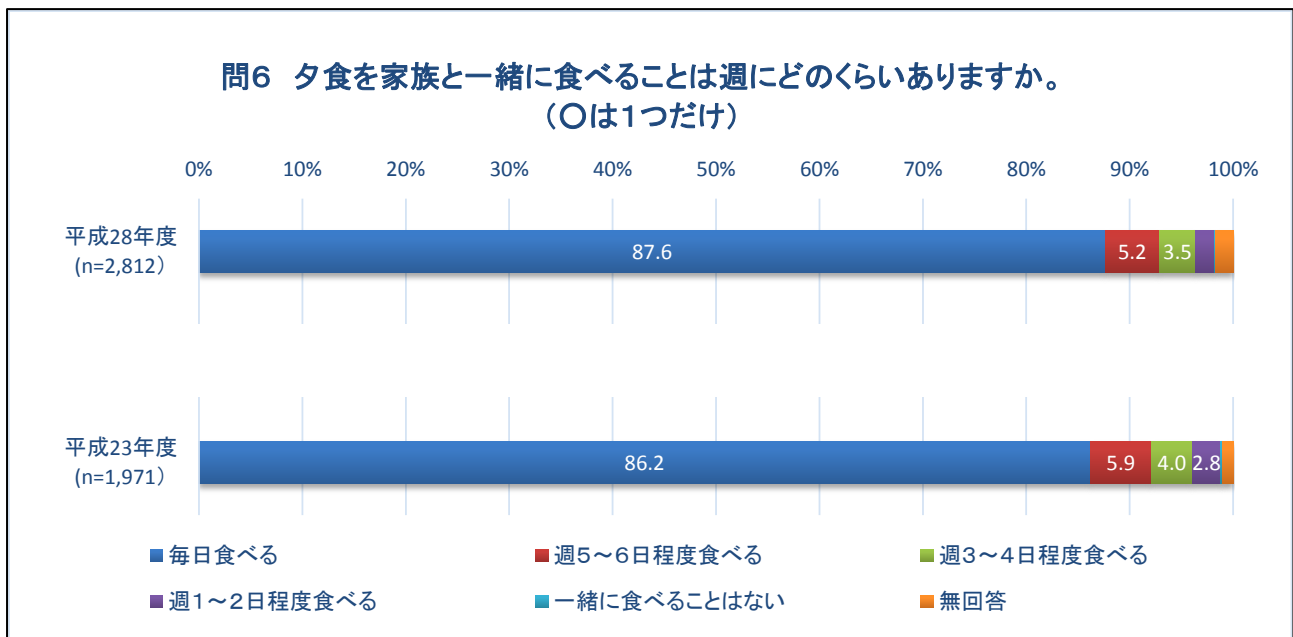
1 2 夕食を家族と食べる頻度

(1) 中学・高校生



毎日食べる人は58.3%で一緒に食べることはないものが2.8%であり、横ばい

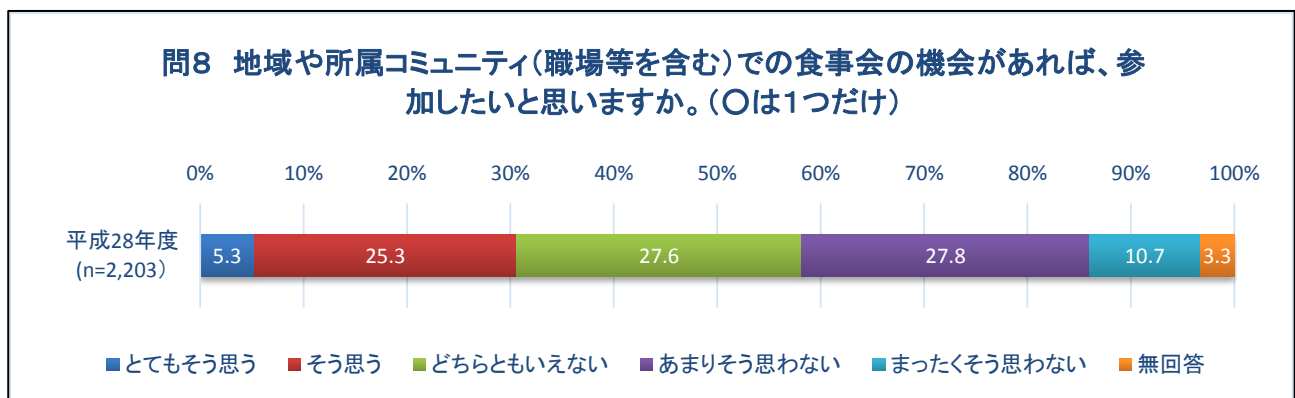
(2) 小児・小学生



毎日食べる人は87.6%で横ばいの状況である。

1.3 地域で共食したいと思う人が共食する割合

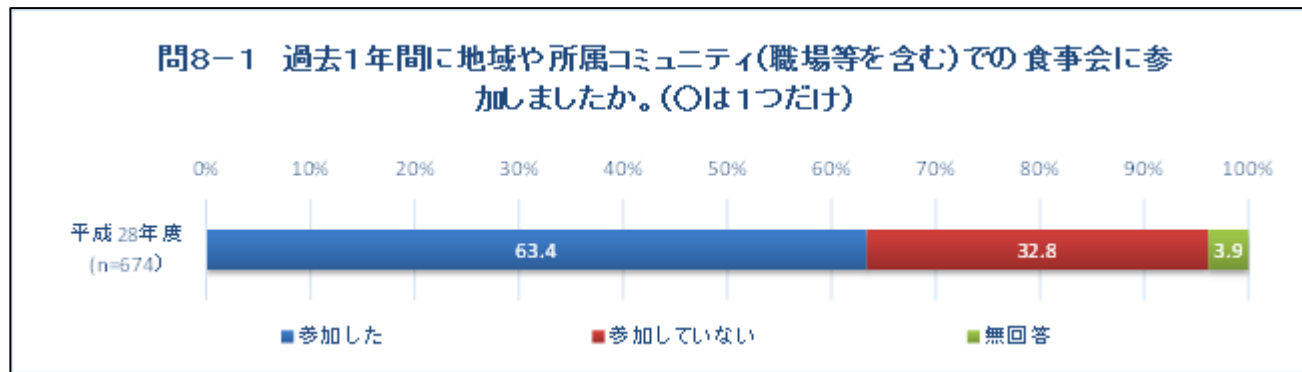
(1) 一般



どちらともいえない27.6%, あまりそう思わない27.8%, 次いでそう思うが25.3%

1.4 食事会の参加状況

(1) 一般



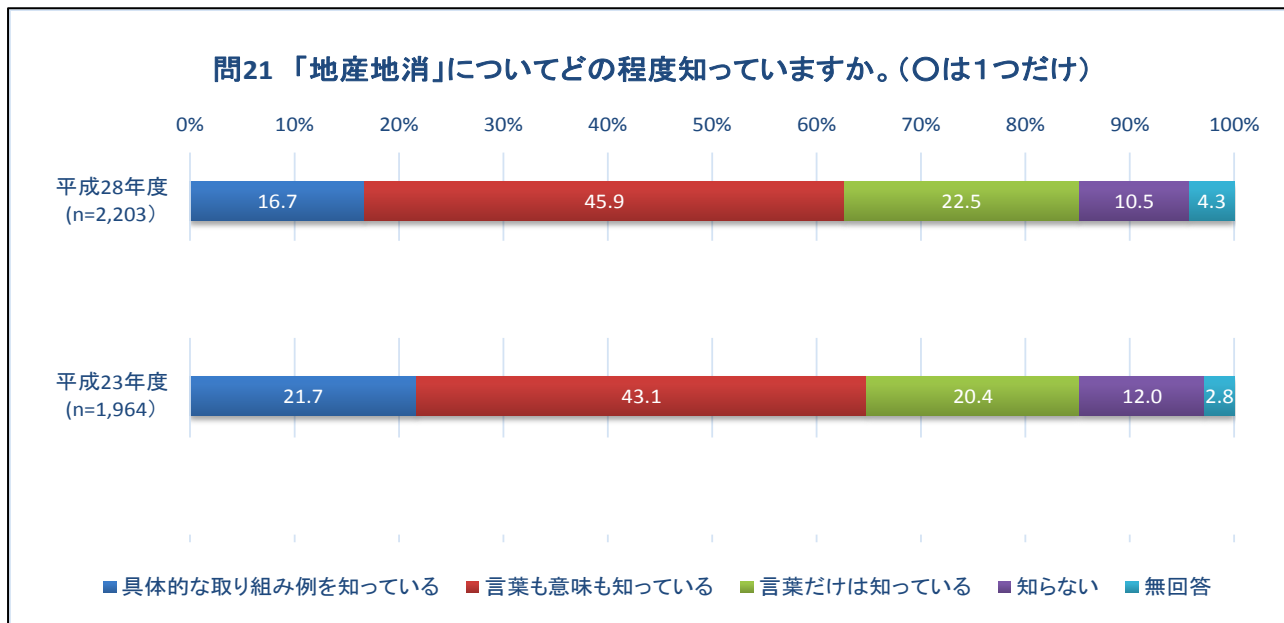
参加した人は63.4%, 参加していない人は32.8%

【基本目標3】地元でとれたものを無駄なく美味しく食べます

〔自然の恵みや食の大切さを理解し、食や食に関わる人に感謝の気持ちを持ち、地産地消や環境に配慮した生活を送る〕

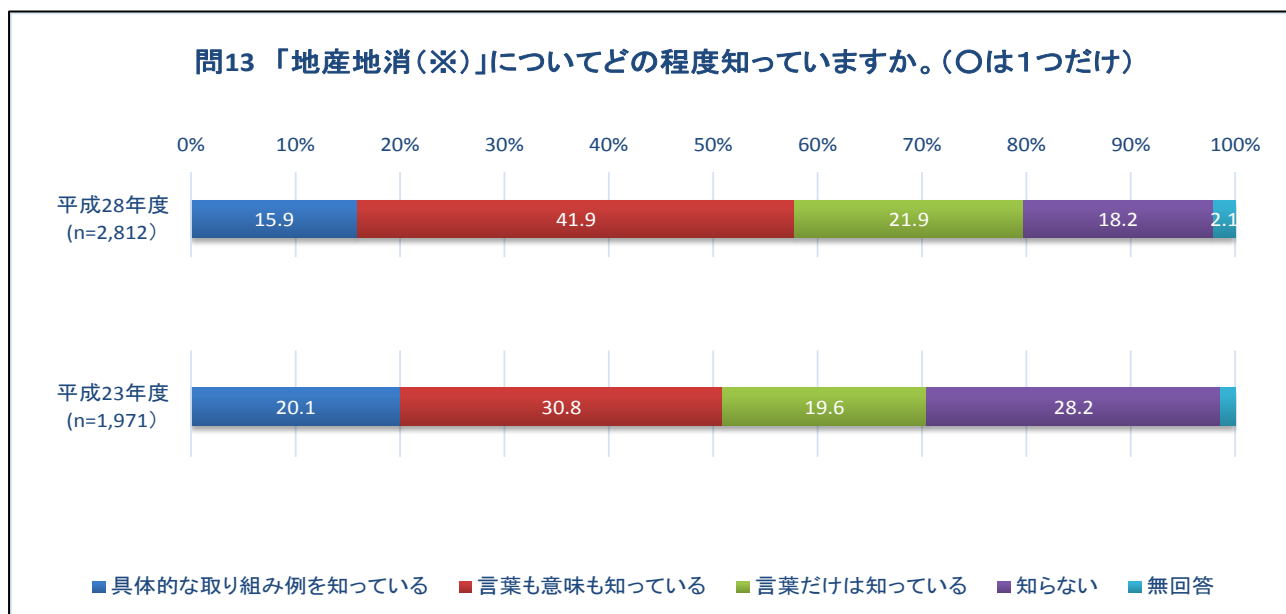
1 地産地消の認知度

(1) 一般



言葉も意味も知っている人の割合は45.9%に上昇し、具体的な取組例を知っているものは16.7%と23年度より減少。

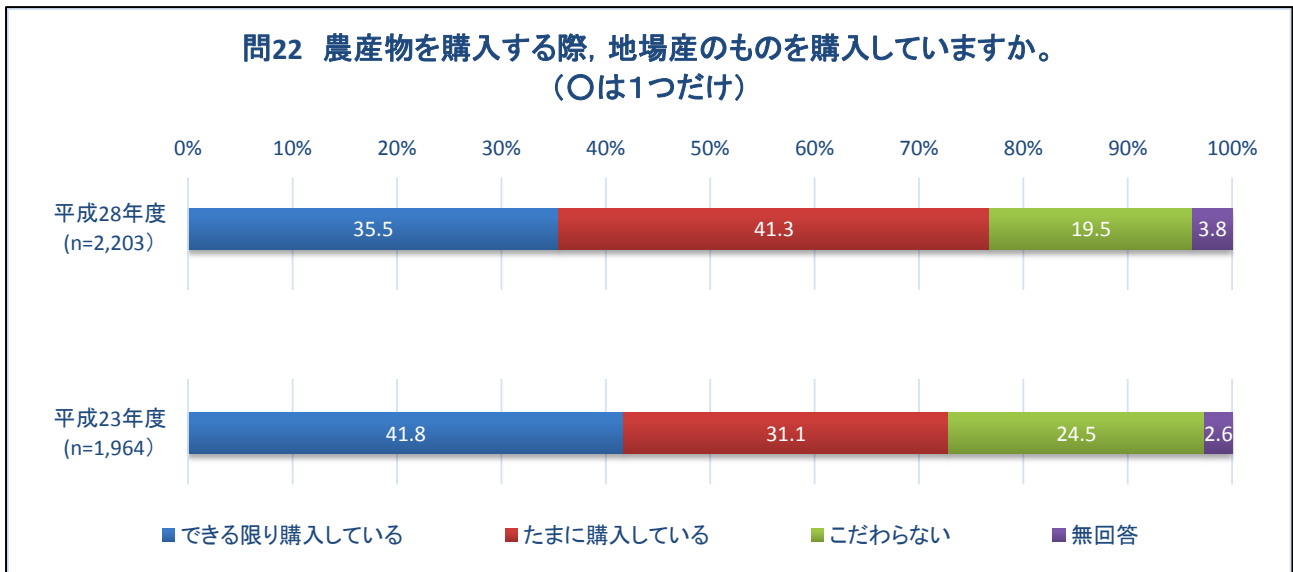
(2) 中学・高校生



言葉も意味も知っている人の割合は年々上昇し、41.9%、具体的な取組例を知っているものは15.9%と23年度より減少。

2 地場農産物をできるだけ購入している人の割合

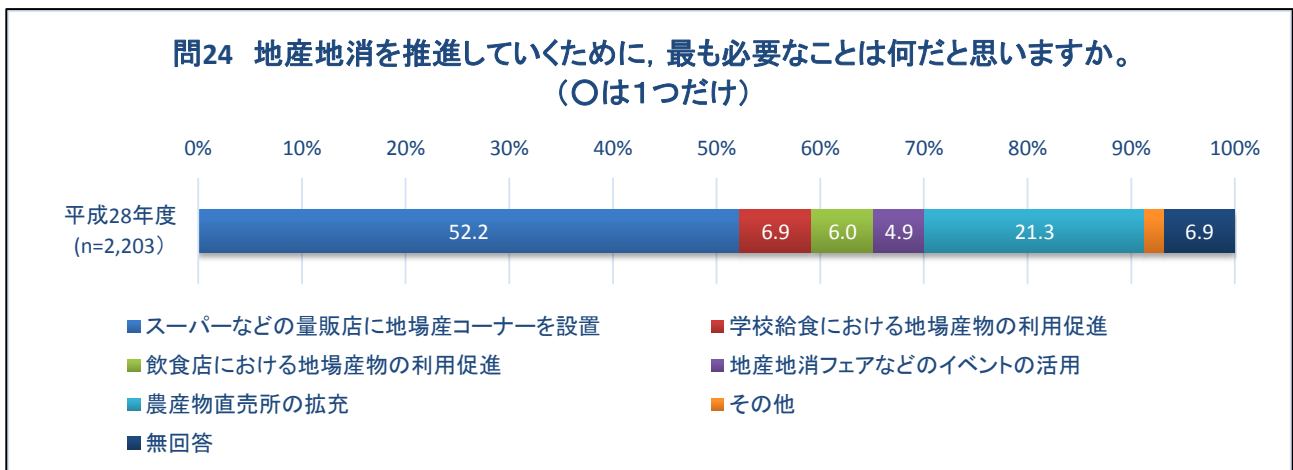
(1) 一般



できるだけ購入している人の割合は35.5%と減少しているが、たまに購入している人の割合は増加しており、41.3%、こだわらない人は減少している

3 地産地消を効果的に推進するための方策

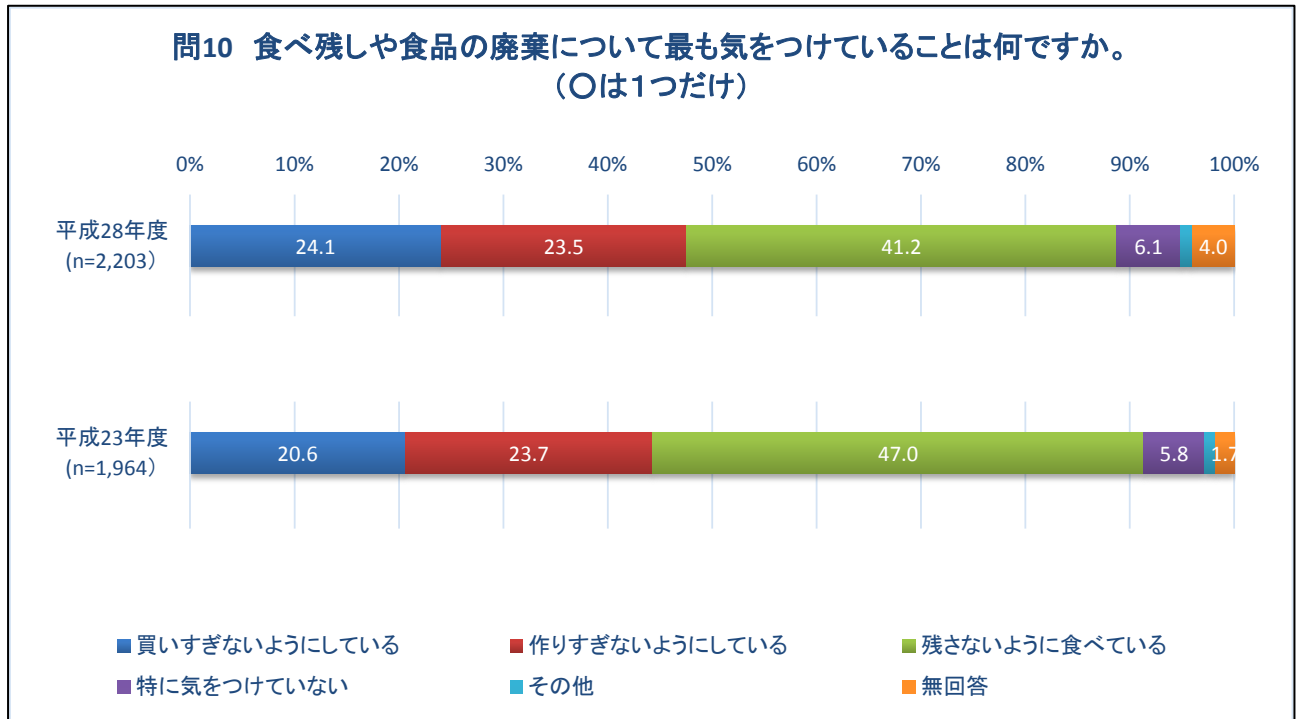
(1) 一般



スーパーなどの量販店に地場産52.2%、農産物直売所の拡充が21.3%と次に多い

4 食べ残しや食品の廃棄に関して気をつけている人の割合

(1) 一般



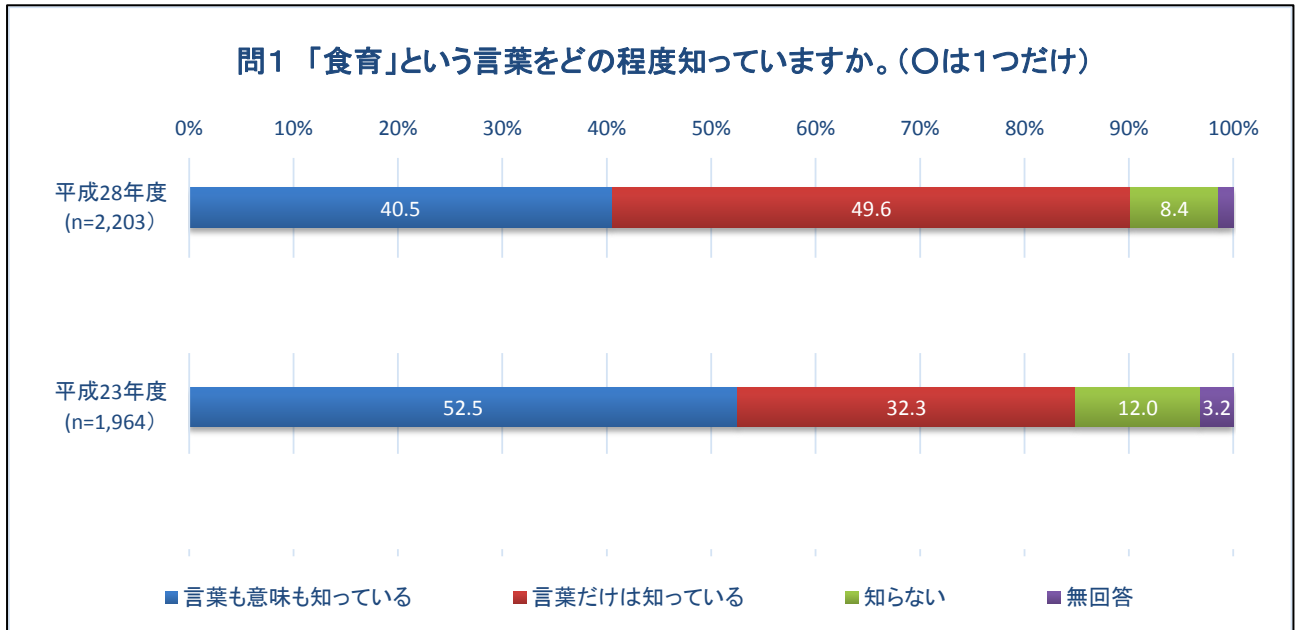
残さないように食べている割合が最も多く41.2%, 買いすぎないようにしている人が24.1%との状況になっている。

【基本目標4】食に対する関心や感謝の気持ちを持ちます

〔食の大切さを理解し、食への感謝の気持ちを深め、食に対する関心や知識を持つ〕

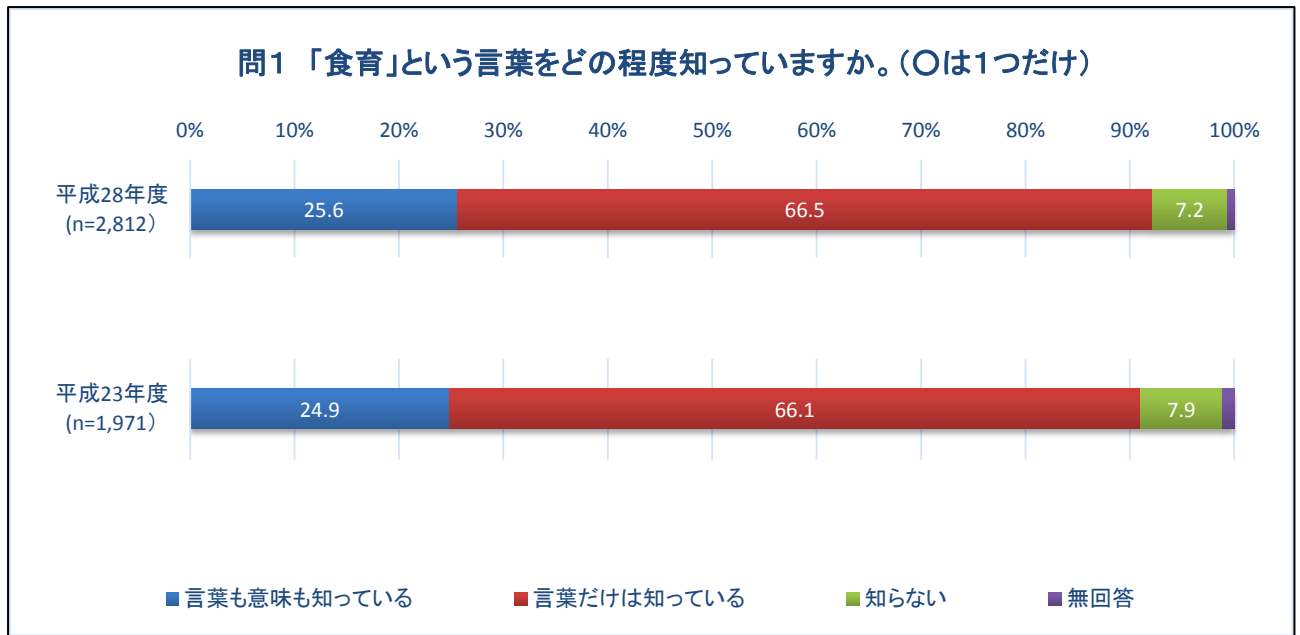
1 食育の認知度

(1) 一般



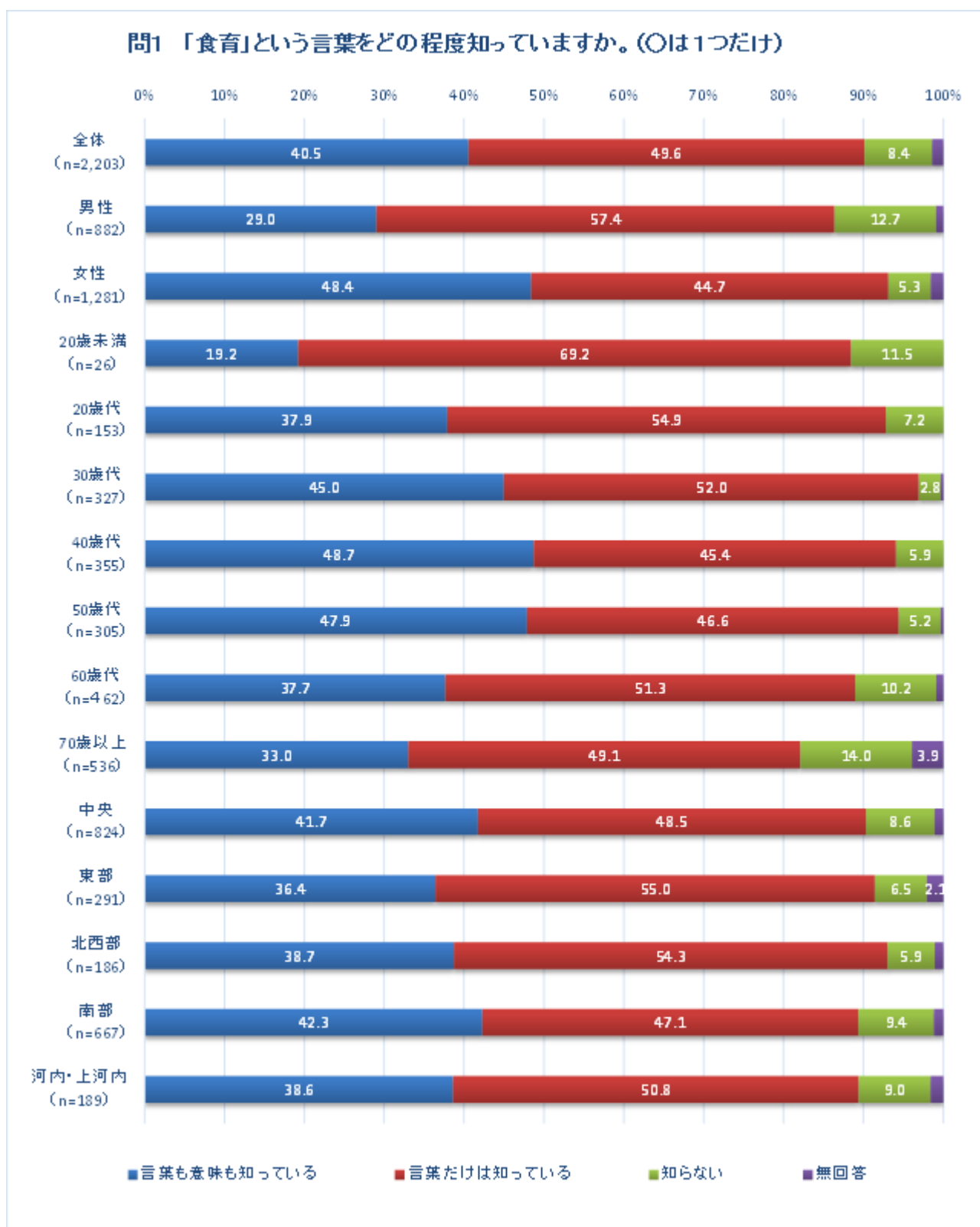
言葉も意味も知っている率は年々減少しているが、言葉も意味も知っている、言葉だけは知っているを含めると年々上昇傾向にある。

(2) 中学・高校生



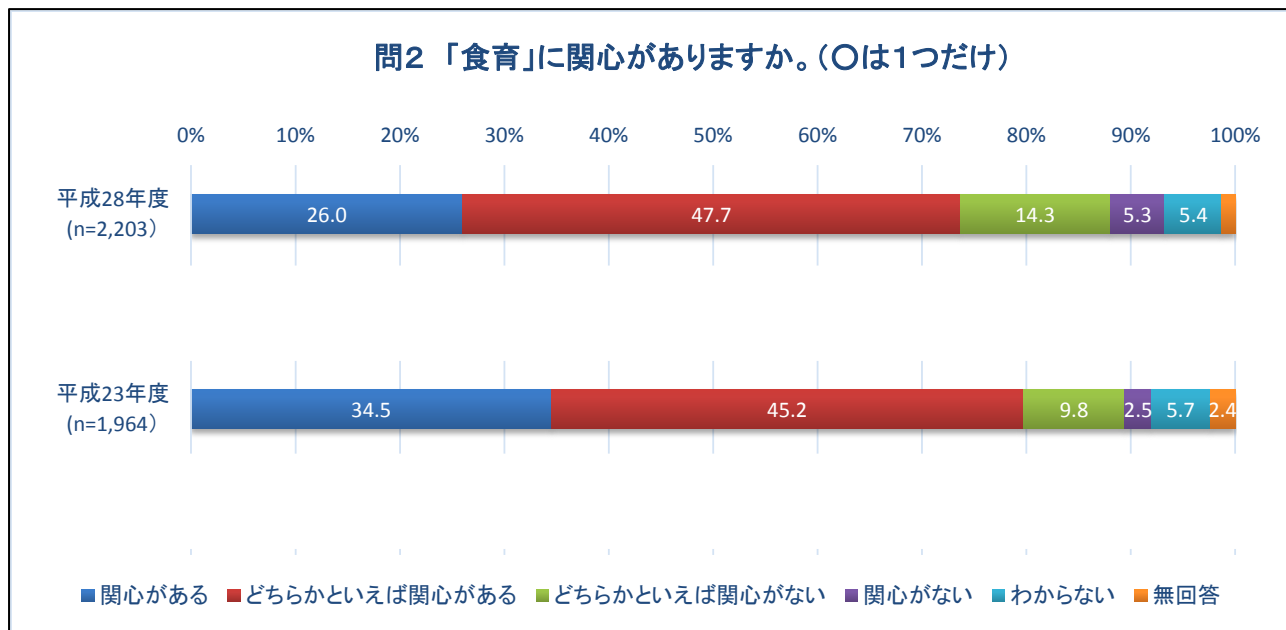
言葉も意味も知っている率は年々増加しており、言葉だけを知っている人も含めると認知度は高くなっている。

(3) 一般（年代別・地域別）



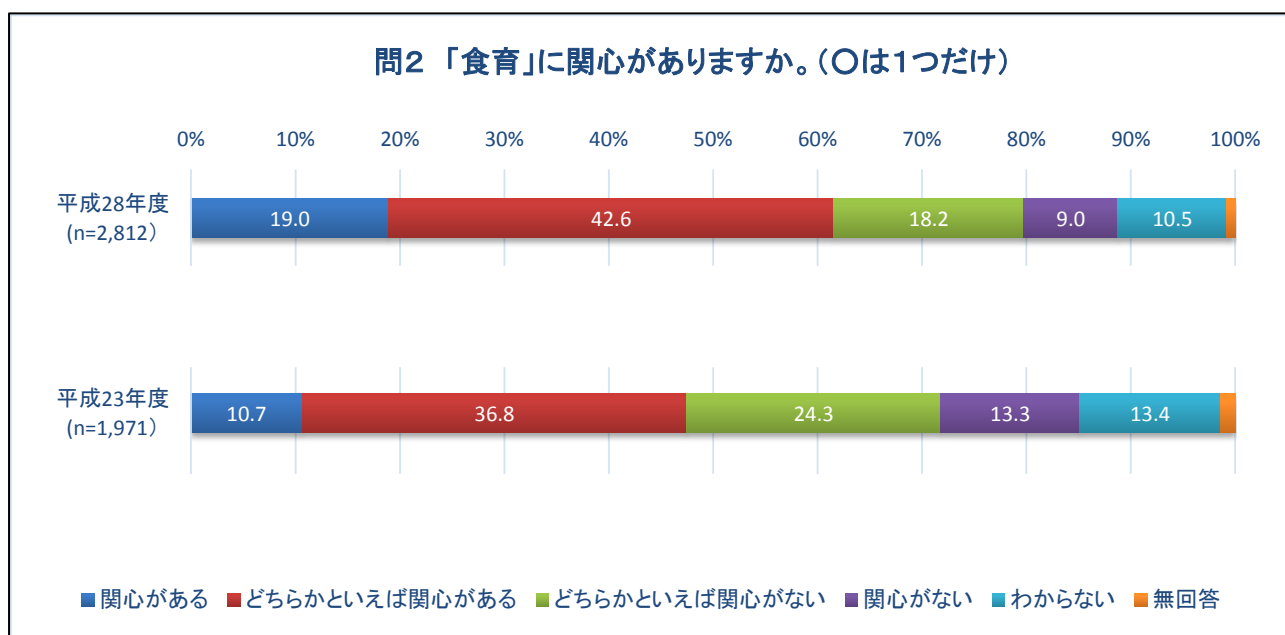
2 食育に関心がある人の割合

(1) 一般



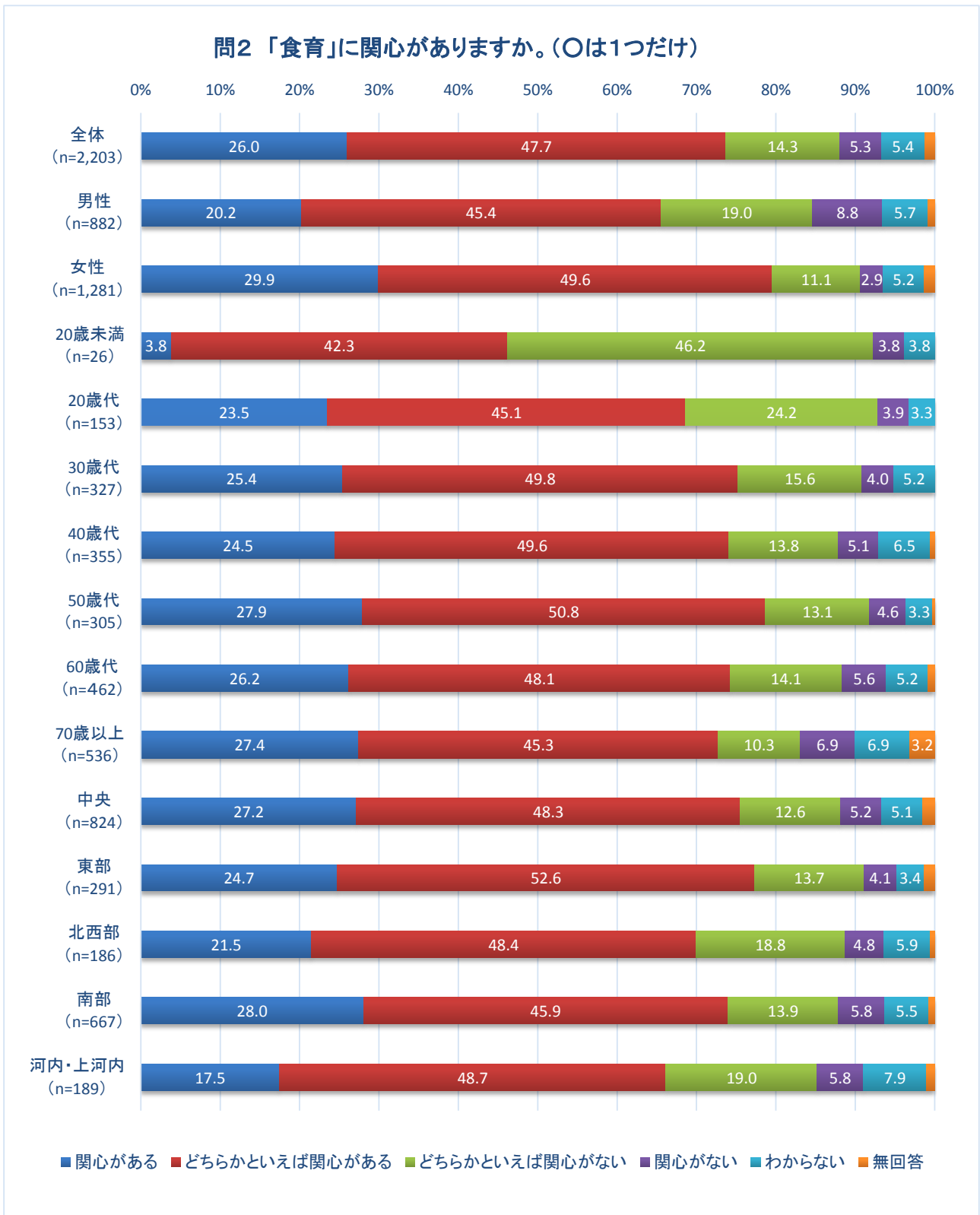
食育に関心がある人の割合は年々減少，どちらかといえば関心がある人を含めても減少

(2) 中学・高校生



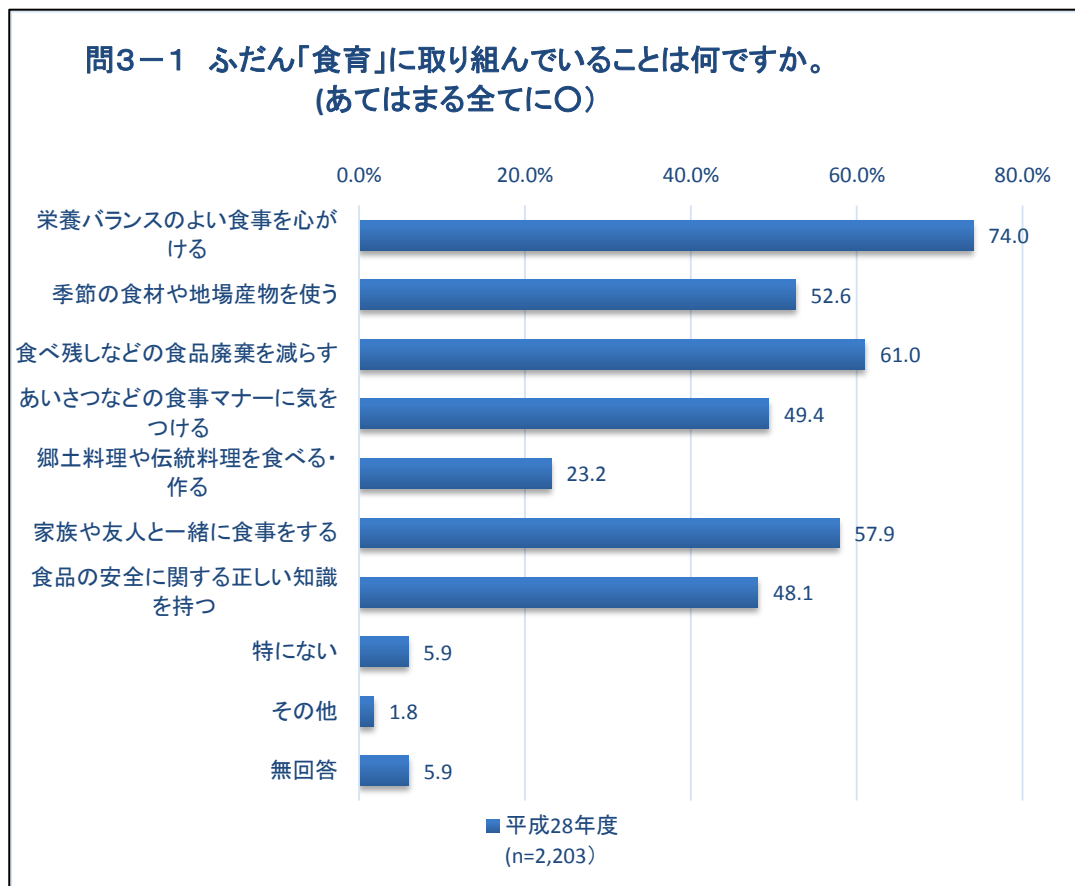
食育に関心がある人の割合は23年度から比較し，28年度は増加，どちらかといえば関心があるを含めると，14%ののびがみられている。

(3) 一般（年代別・地域別）

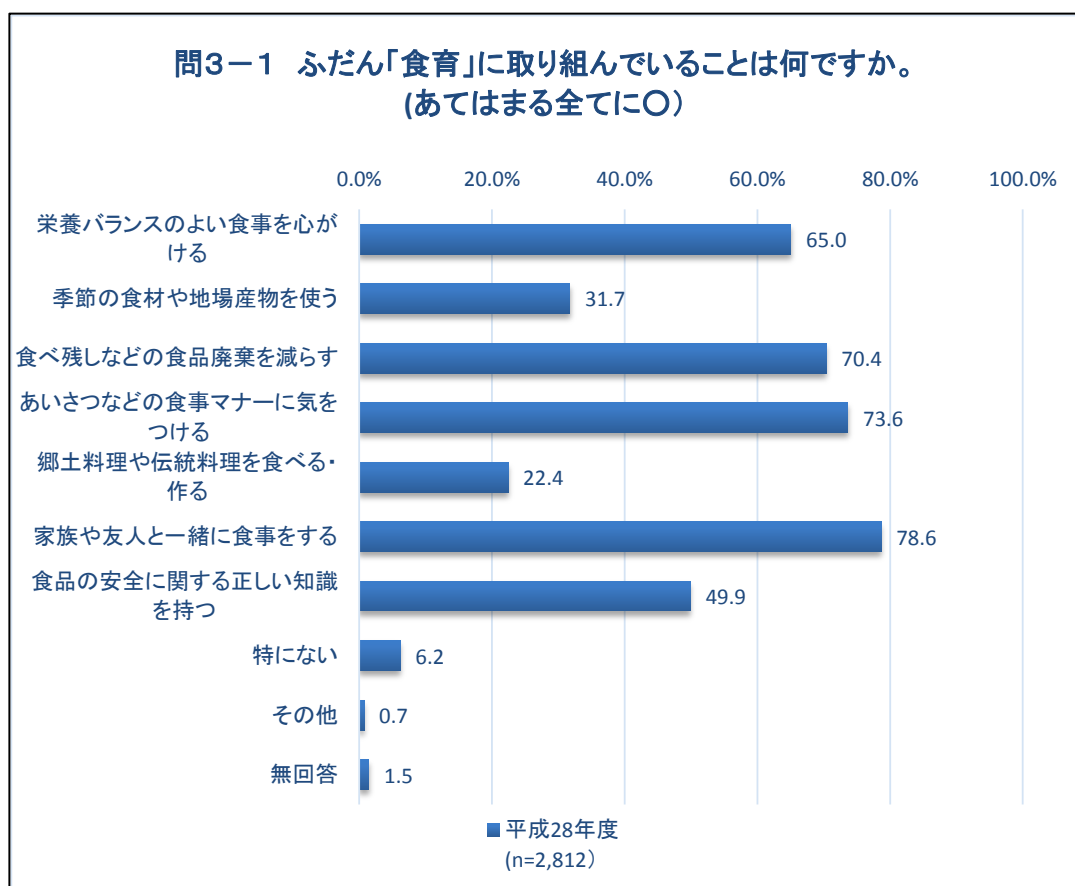


3 食育の取組とその具体的な内容

(1) 一般

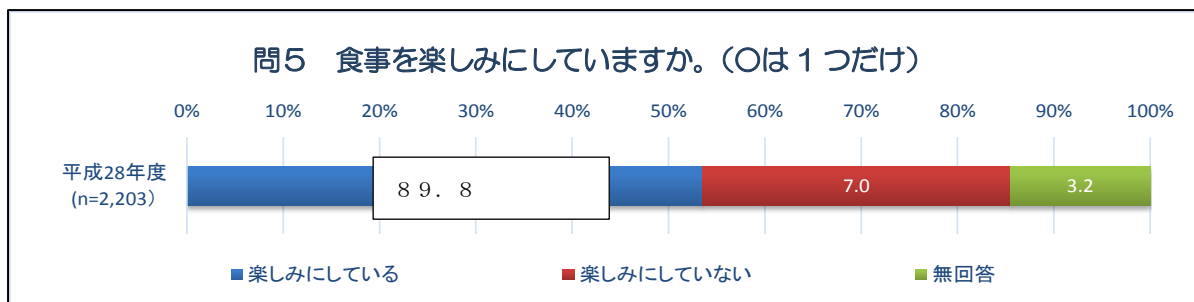


(2) 中学・高校生



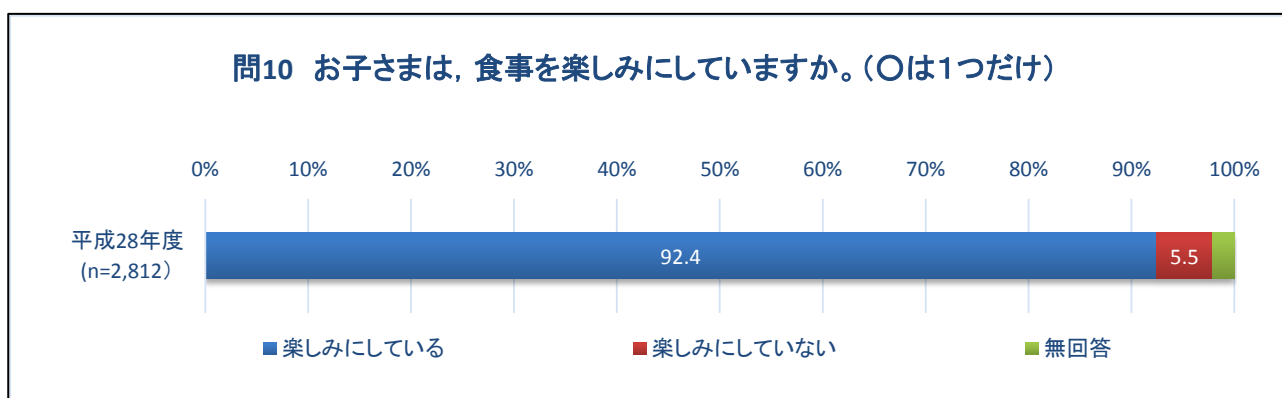
4 食事を楽しみにしているか

(1) 一般



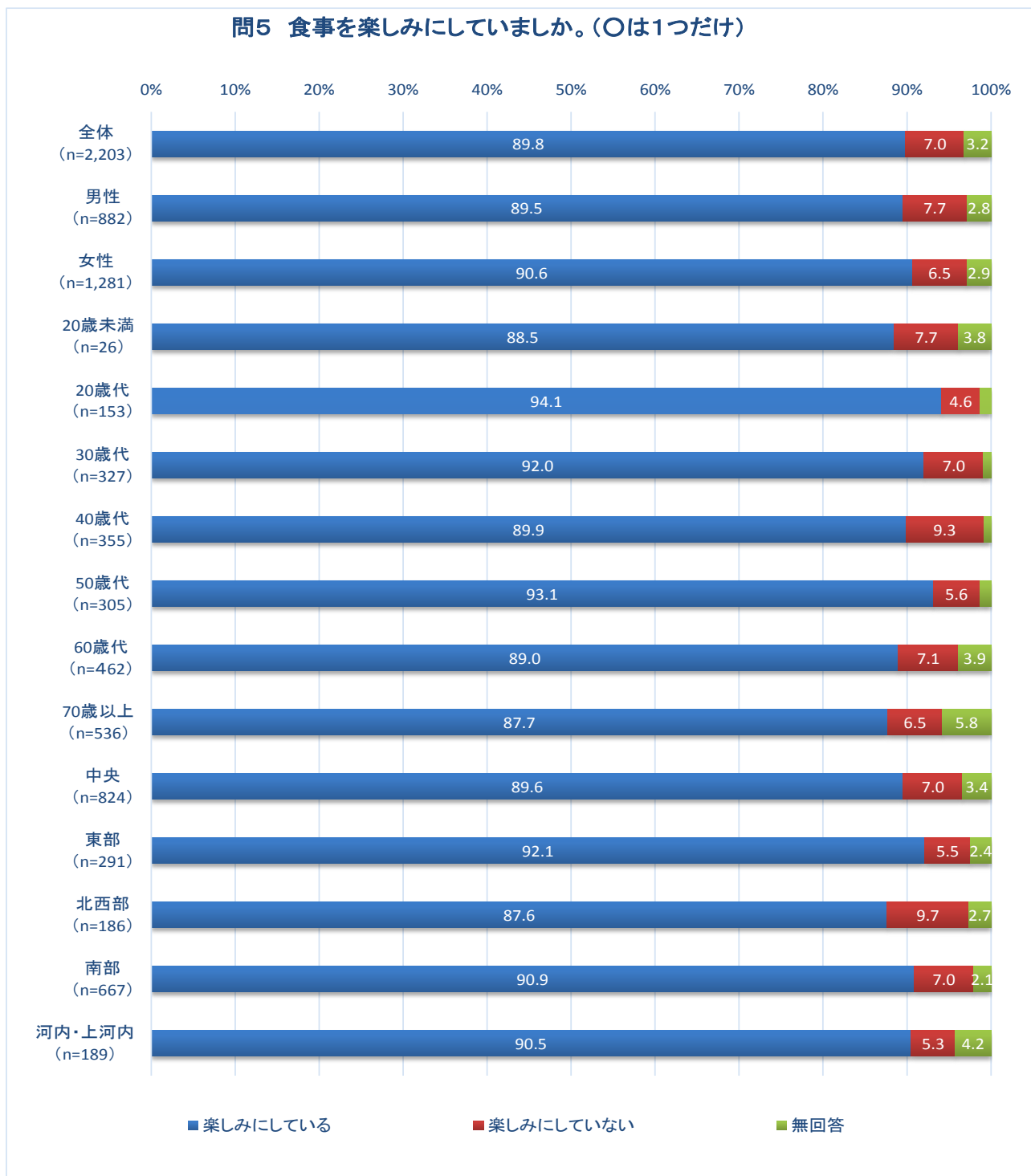
食事を楽しみにしている人の割合は、89.8%と9割を占める。

(2) 小児・小学生



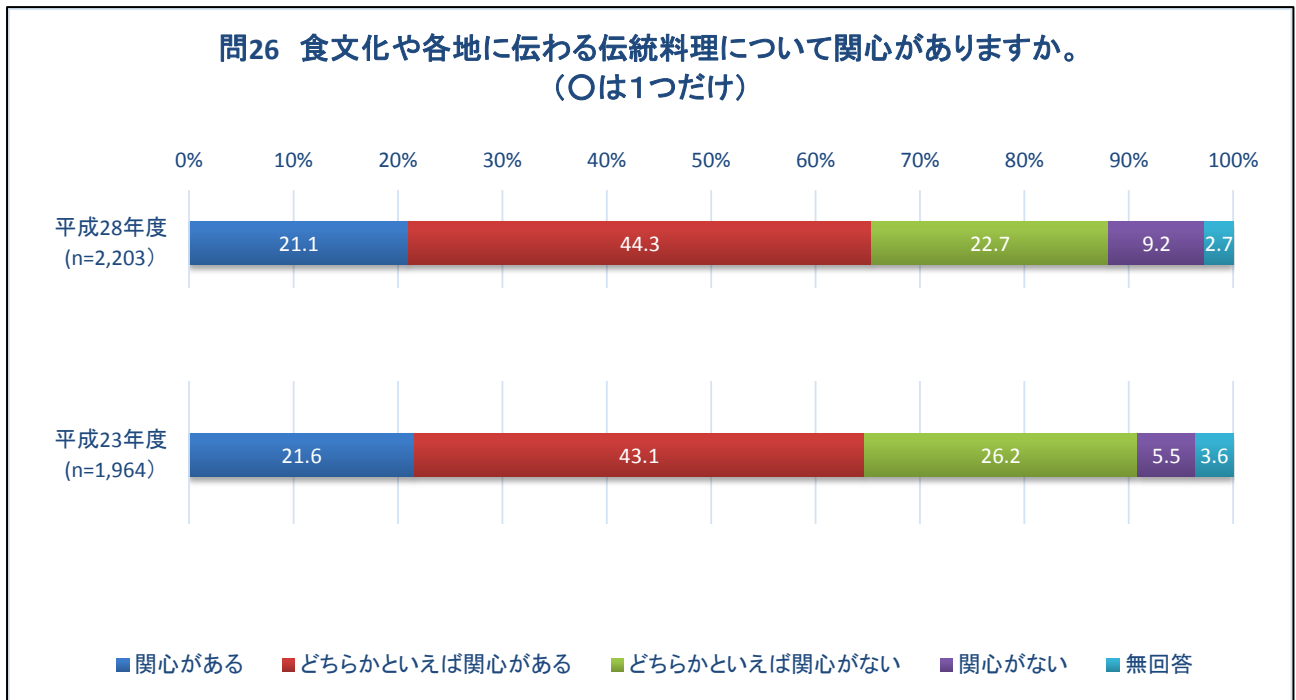
食事を楽しみにしている人の割合は、92.4%と9割を占める。

(2) 一般（年代別・地域別）



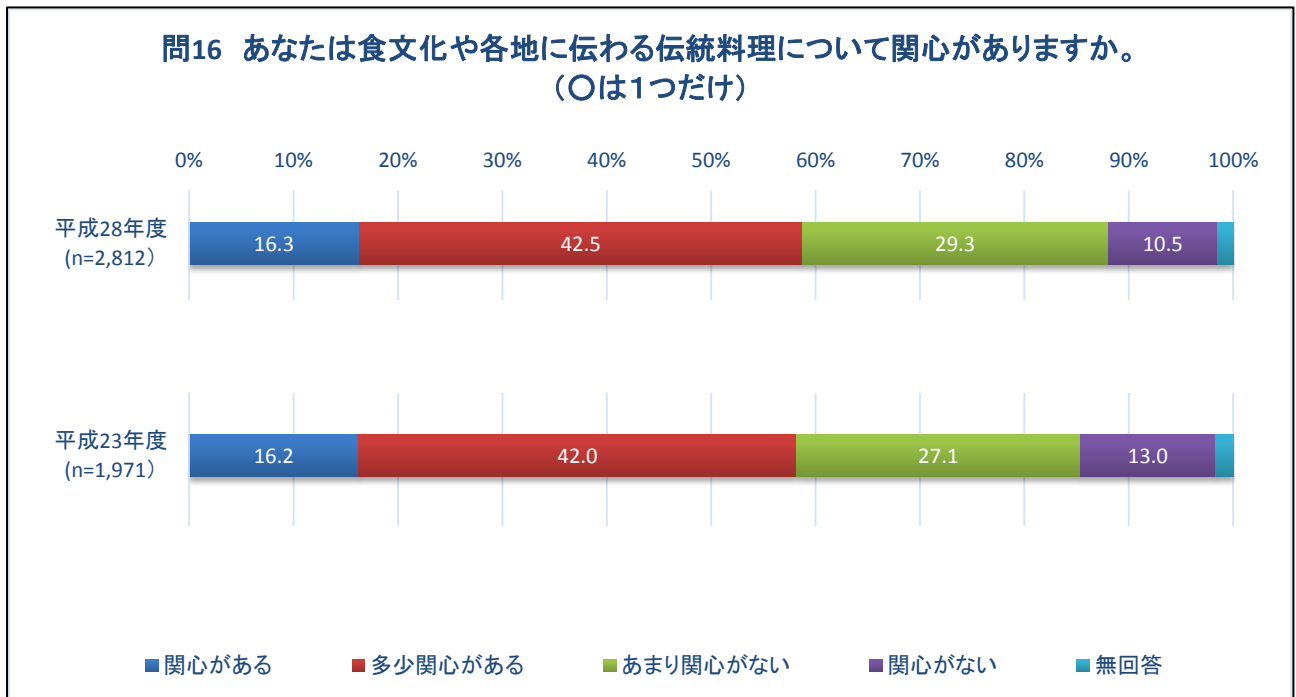
5 郷土料理や伝統料理に関心がある人

(1) 一般



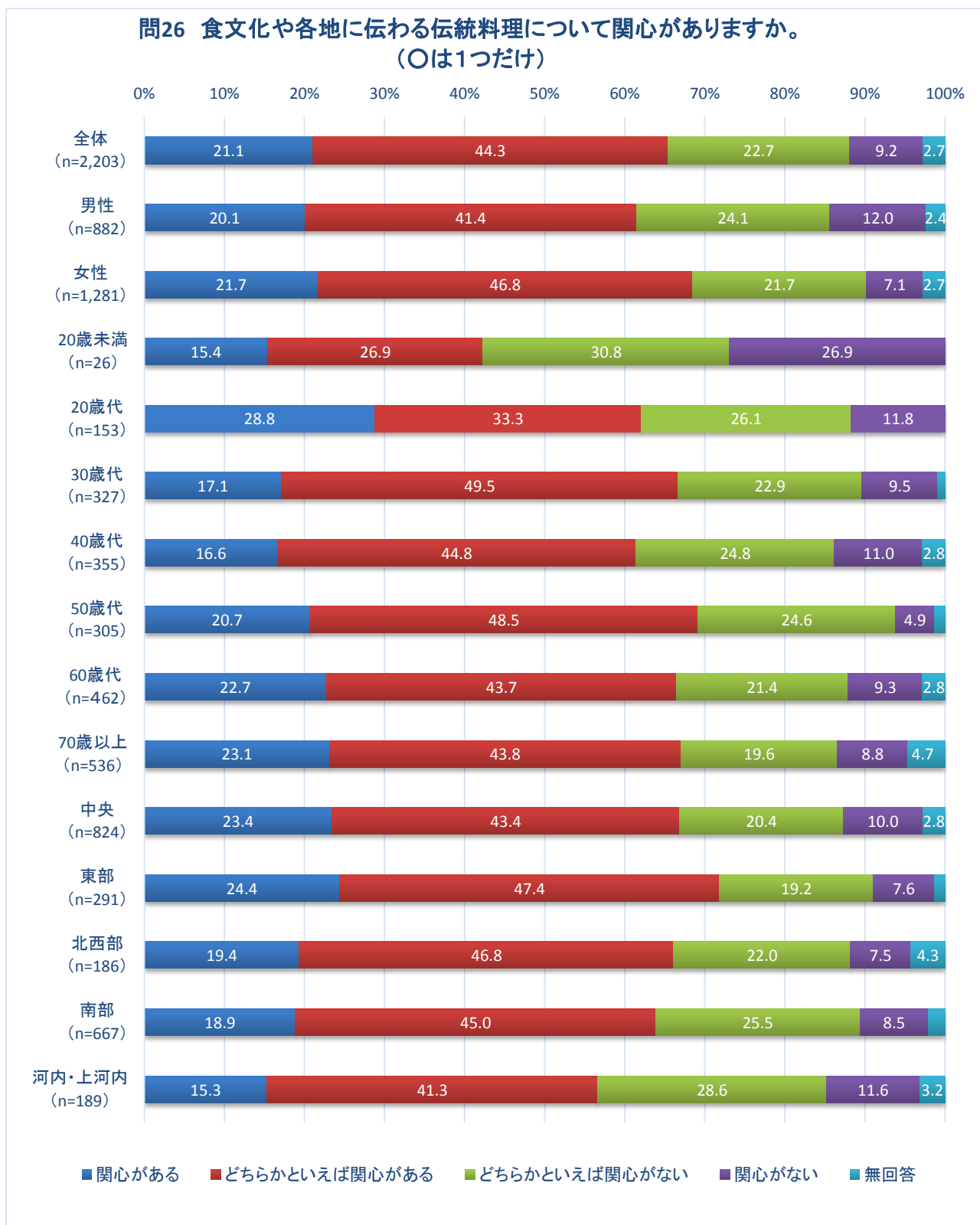
どちらかといえば関心がある44.3%と最も多く、年次的に関心度の変化はない。

(2) 中学・高校生



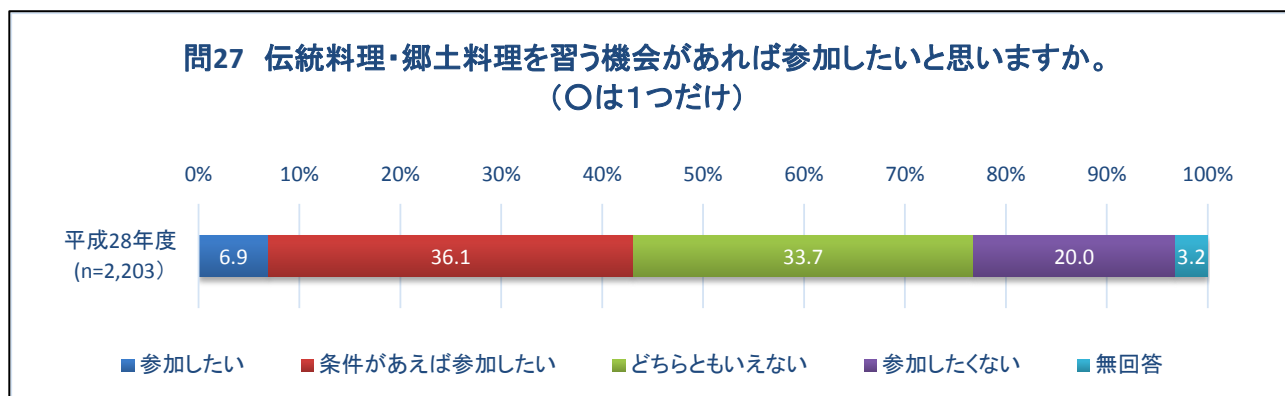
多少関心がある42.5%, あまり関心がない29.3%がづぎに多くなっている。

(3) 一般（年代別・地域別）



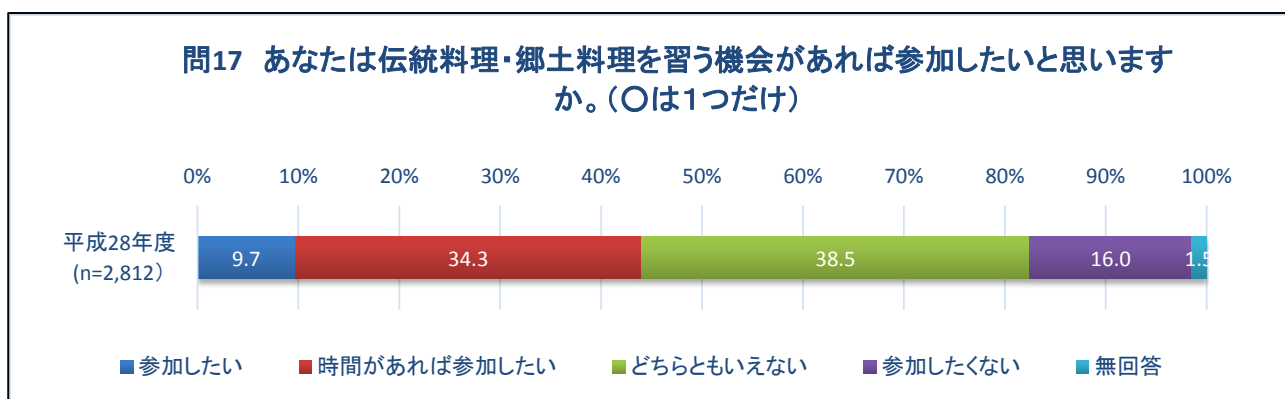
6 郷土食や伝統料理の食体験

(1) 一般



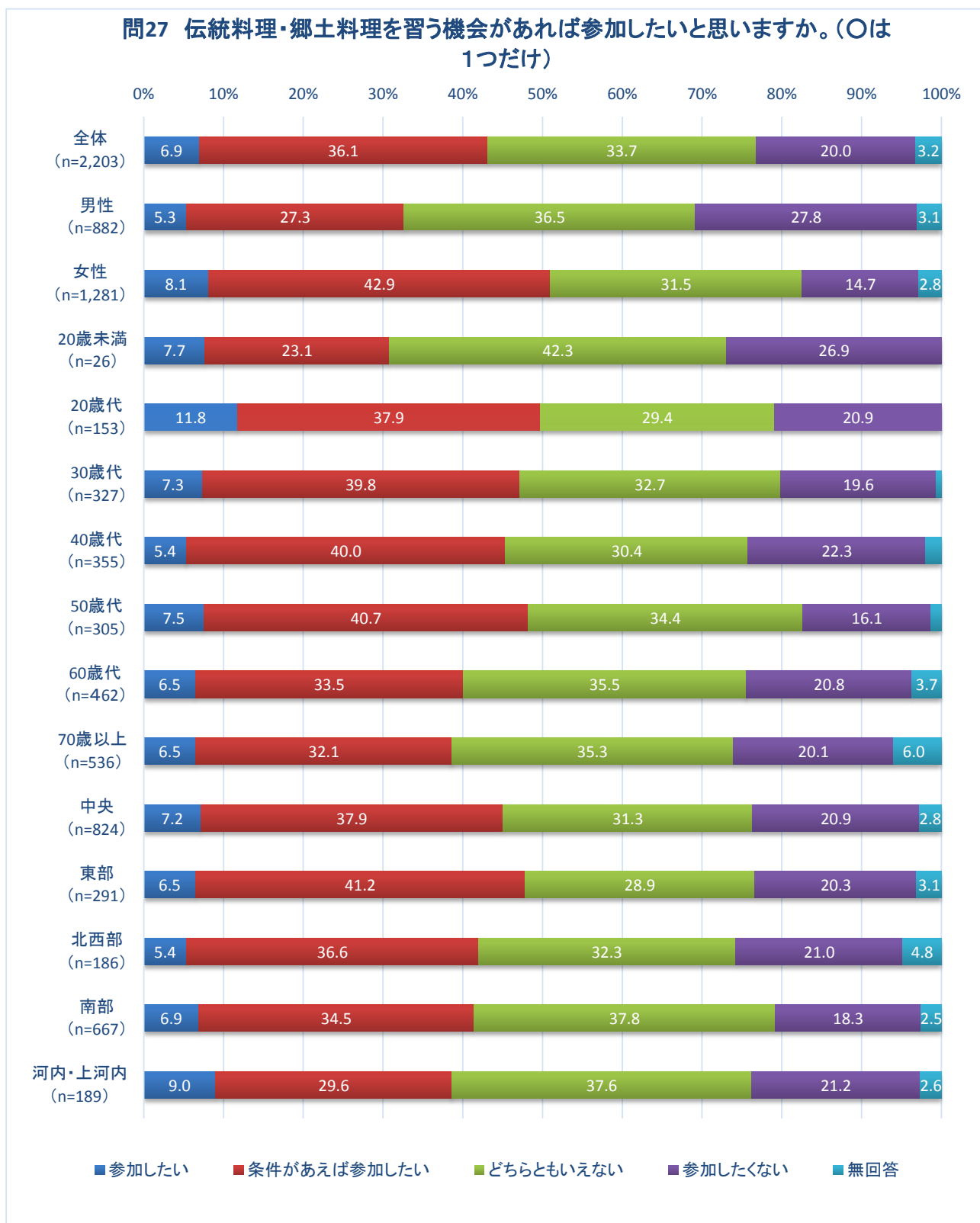
条件が合えば参加したいが36.1%が多い。

(2) 中学・高校生



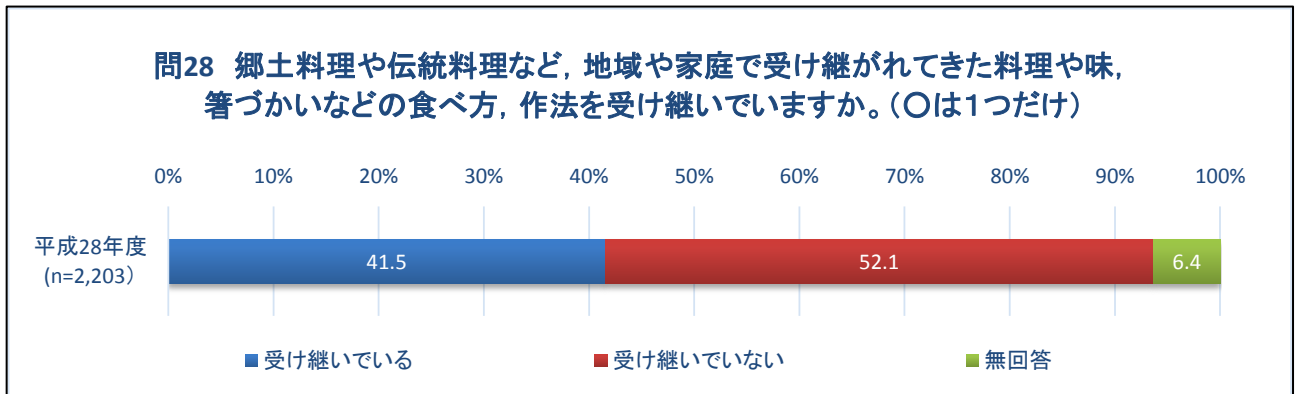
どちらともいえない38.5%と最も多く、次いで時間があれば参加したいが34.3%である

(3) 一般（年代別・地域別）



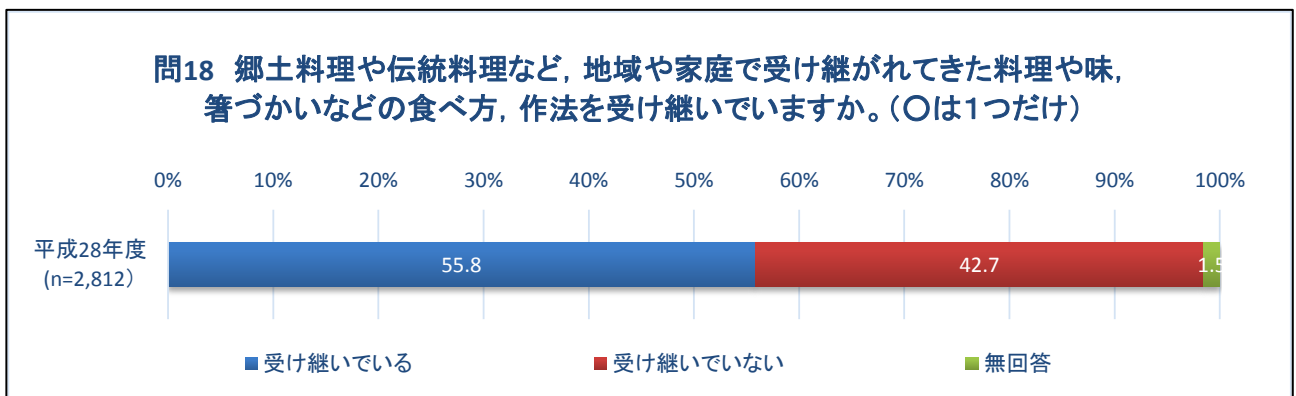
7 郷土食や伝統料理の継承

(1) 一般



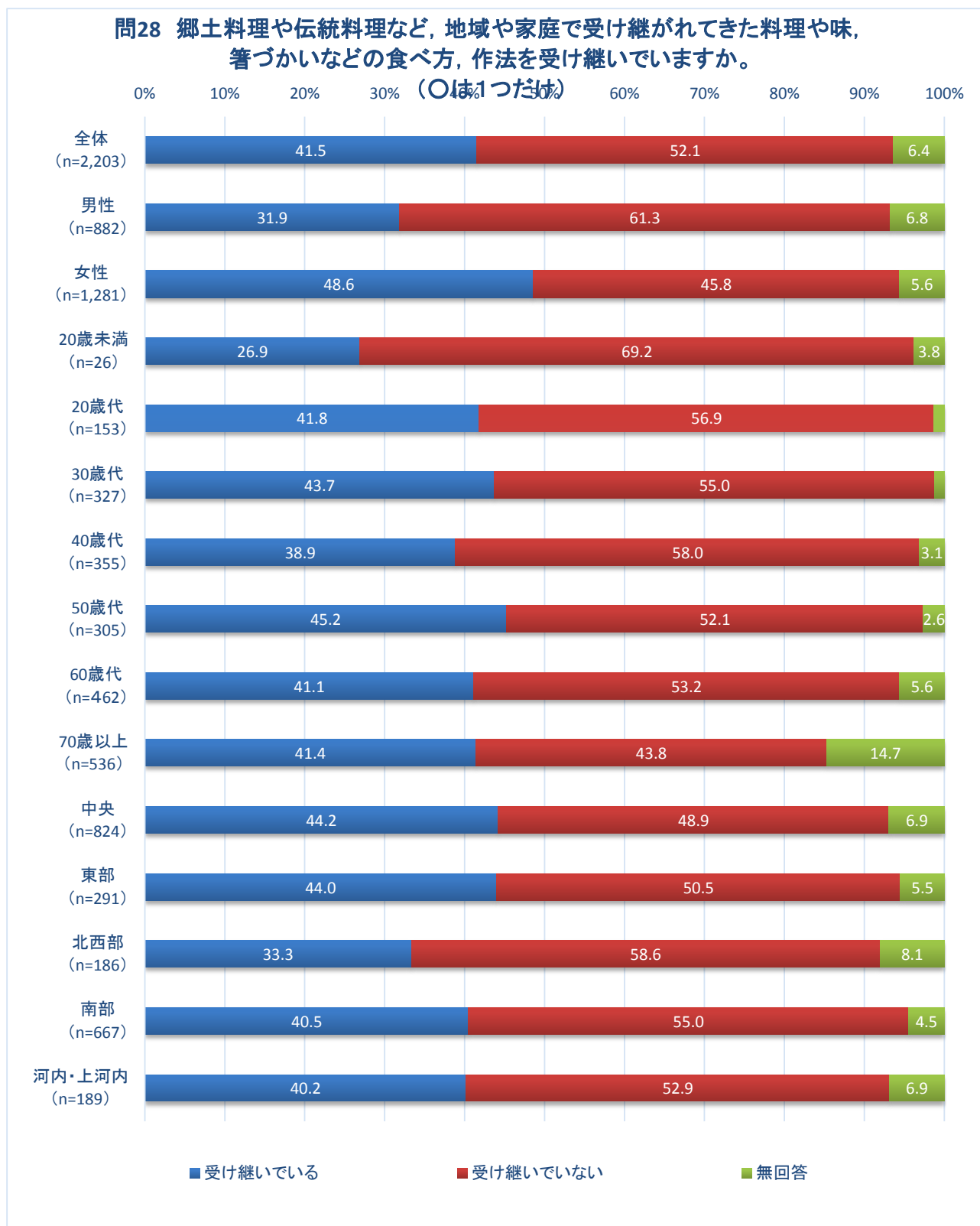
受け継いでいない人が52.1%と多くなっている。

(2) 中学・高校生



受け継いでいるが55.8%、受け継いでないが42.7%の状況である。

(3) 一般（年代別・地域別）



8 郷土食や伝統料理の伝承

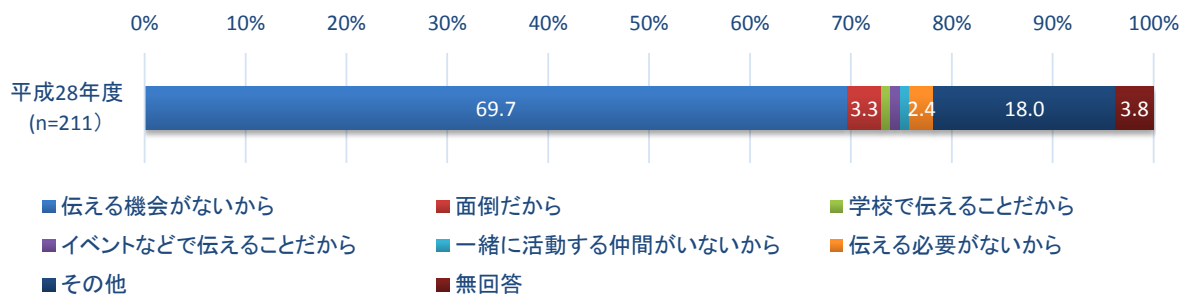
問28-1 郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方、作法を地域や次世代(子どもやお孫さんを含む)に対し伝えていますか。(〇は1つだけ)



受け継いでいる人のうち、地域や次世代に伝えている人が75.6%と多くなっている。

9 郷土食や伝統料理の伝承をしていない理由

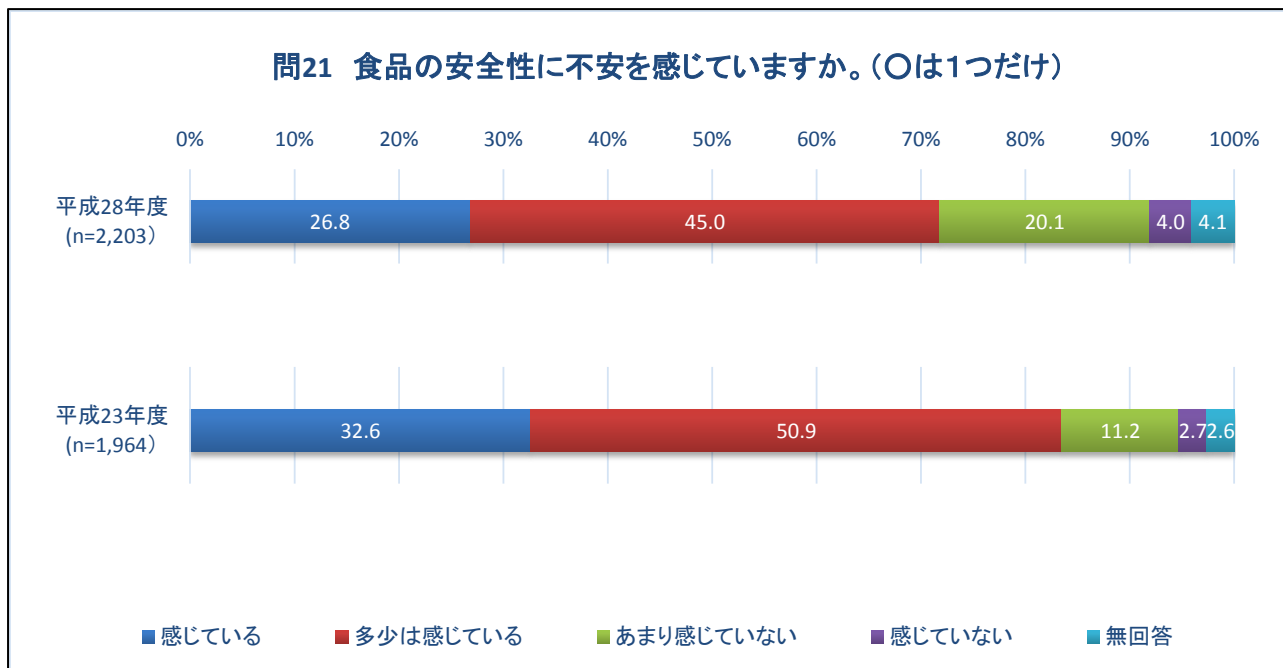
問28-2 郷土料理や伝統料理などを伝えていない理由は何ですか。(〇は1つだけ)



伝える機会がないからの理由が最も多く69.7%

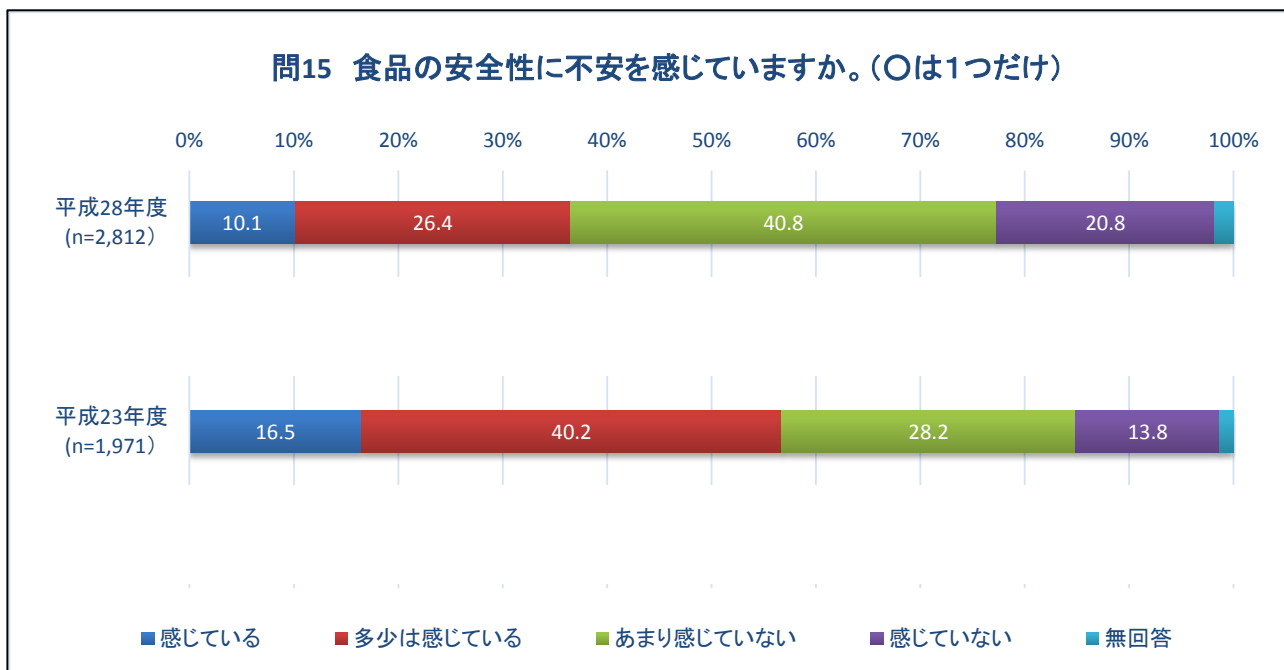
10 食品の安全性に対して不安を感じている人の割合

(1) 一般



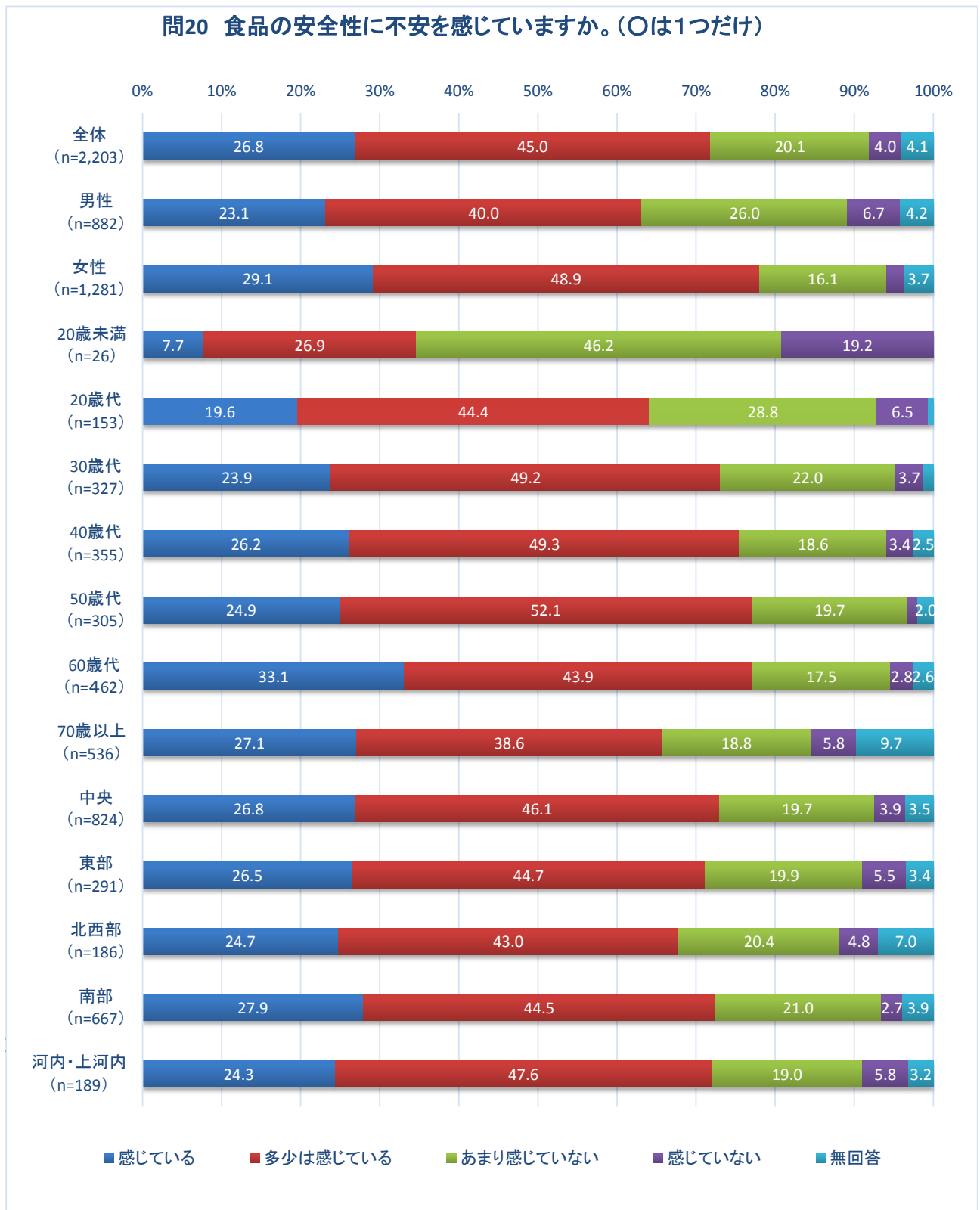
不安を感じている人は26.8%, 多少感じている45.0%合わせると減少し, あまり感じていない人が増加している。

(2) 中学・高校生



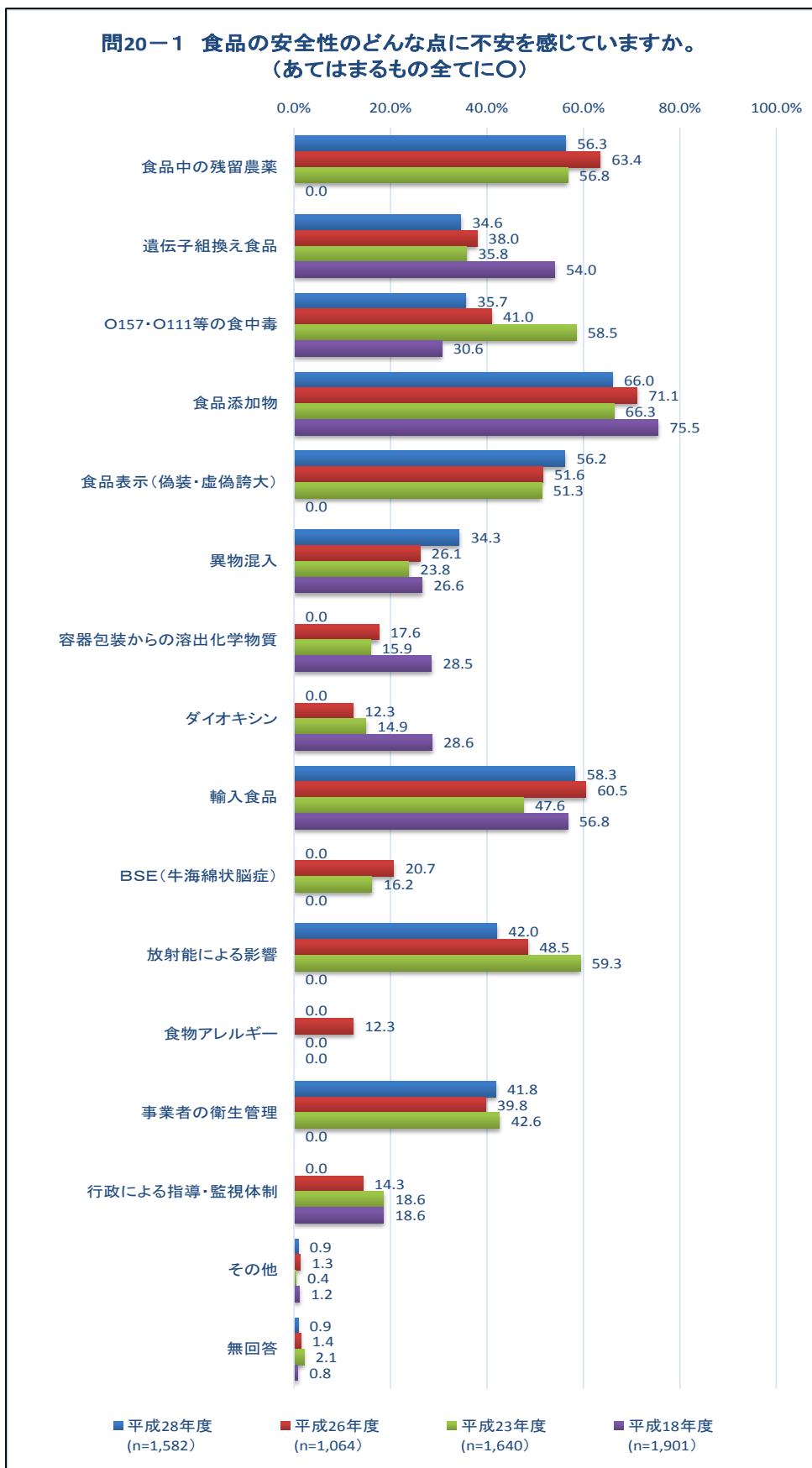
感じている人は10.1%, 多少感じている26.4%であり, 年々減少し, あまり感じていない40.8%が増加している。

(3) 一般（年代別・地域別）

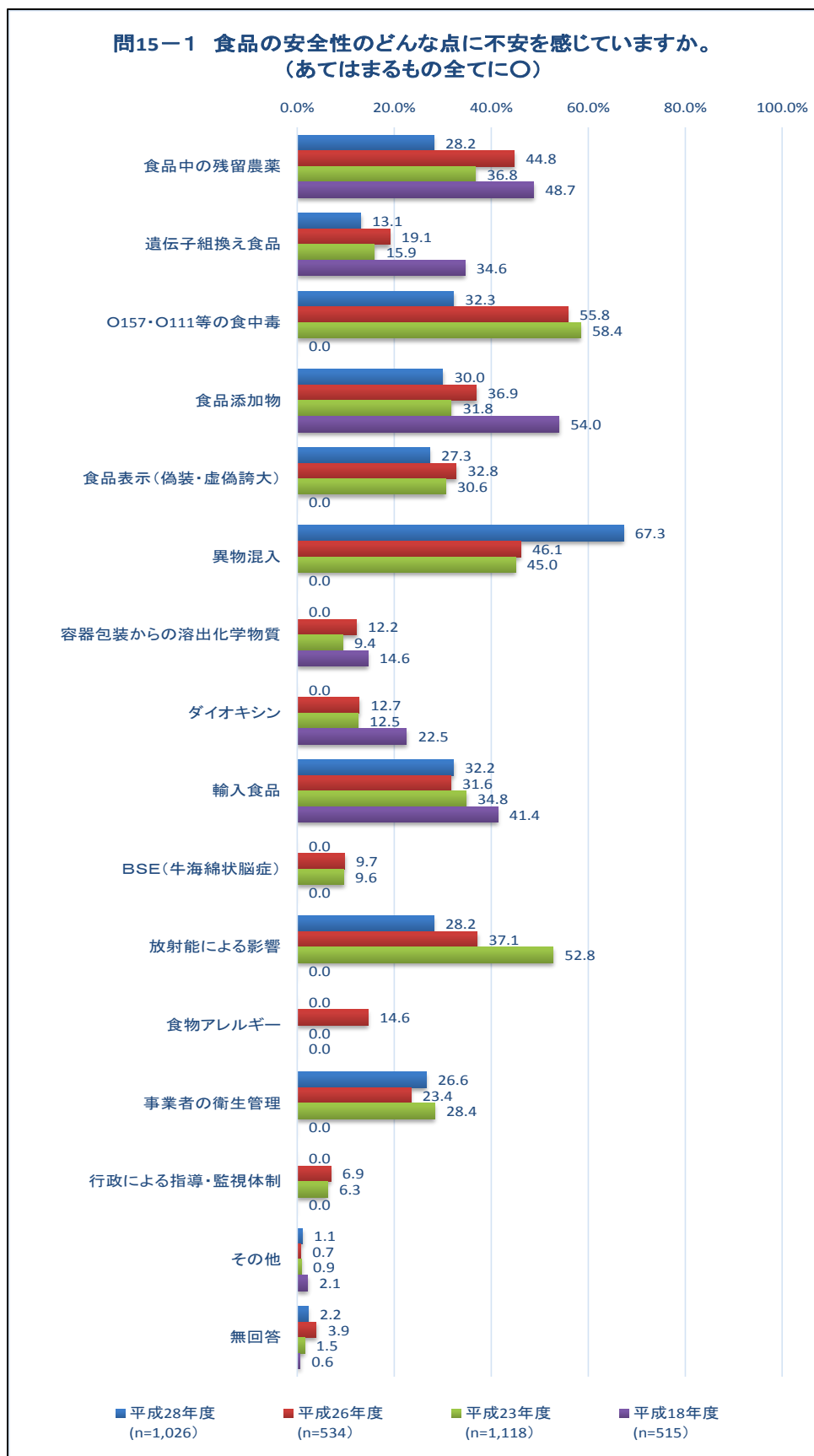


1 1 食品の安全性に不安を感じている内容

(1) 一般



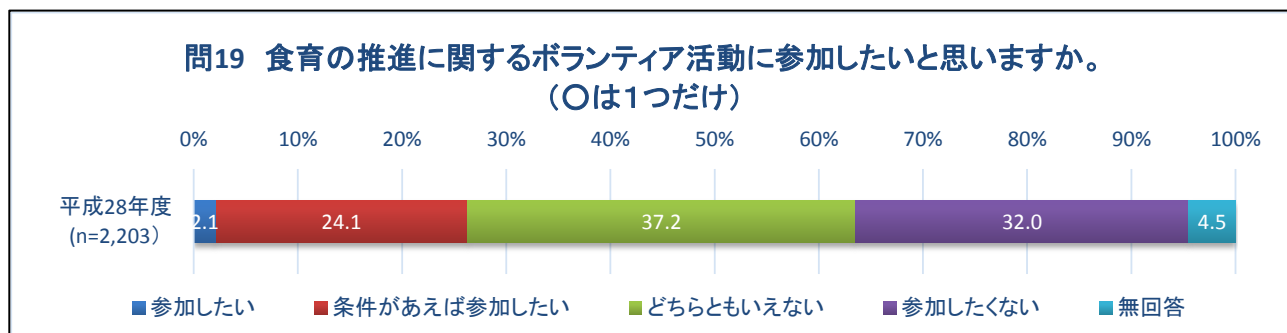
(2) 中学・高校生



【その他】

食育の推進に関わるボランティア活動

(1) 一般



条件があれば参加したい、参加したいを合わせて26.2%の人が参加意向